

豊見城村史だより

第5号 1999・12・15

「日本海軍機密電報」資料

五三〇 反艦一六〇五 一六四九 一四五八六 一四五八〇

作と 信 区 原 伏 空 五 地

機密第三〇一一二七封宛 二分ノ二

發 沖根司令官

宛 〇〇〇〇

沖根所在海軍部隊ハ既ニ空軍隊同様に大砲及迫撃砲隊全カヲ編成シ指揮下ニ入ル海軍ニ同行セ得ル状況ニテ小隊地軍死守ノ配備ニ従テアル處檢閲ヲ主力トスル部隊ナルヲ以テ兵力著シク低下シアルモ未ダ陸軍ニ近シ切レバ迫撃砲隊三〇〇〇發アリ今此處ニ迫撃砲十門ノ夜間空襲ヲ待ナハ大ナル威力ヲ發揮シ之ダ切迫セリ至急高砲ヲ待度致下ノ位置ハ 兩隊行場北野ノ平地ヲ可トス。

通一六三六六二 〇一〇七七(九八三〇〇)位二頁 長谷川(發)

通一四四四九 〇一〇七七(九一五五〇)位二放 結音(サイ)

沖根聯合陸軍隊隊員五五員 沖根切込隊三五員ヲ機察區方ニ進出セシム二十五日三二軍ハ二十六日沖繩島喜廣武牛島ニ兵力ヲ集中スルニ決スルモ山陽海軍部隊主力亦同地區ニ移動ヲ開始シ身切込隊九隊ヲ機察區方面ニ進出セシム二十二日追加陸軍大隊長山口大尉松川附近ニテ戦死其ノ遺骸捕獲アル見込ナルモ遺容不明ナリ。

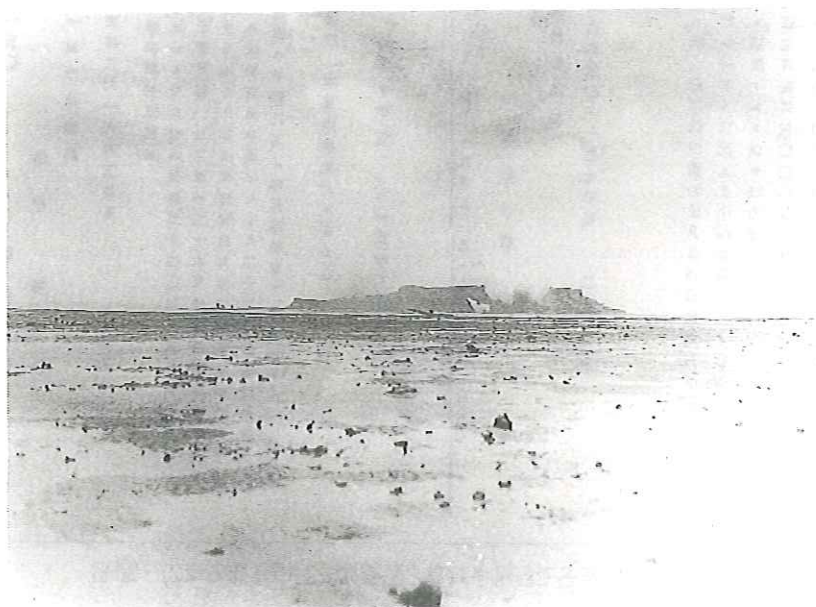
一 東 通 往 本 電 誤 字 誤 ノ チ 多 シ

沖根の大田實司令官名で打電された「海軍電報」1945年5月27・30日

豊見城村教育委員会
村史編さん室

もくじ

| | |
|--------------------|----|
| 海軍電報について(解説) | 1 |
| 凡例 | 5 |
| 海軍電報 | 6 |
| 編纂室日誌 | 47 |



米軍の猛烈な砲撃を受ける瀬長島(砲台) 1945年6月12日

12センチ砲(?) 4門が配備されていた。米軍は上陸前の3月29日に戦艦など7隻で砲撃をしたが、砲台は健在であった。5月22日には陸軍垣花砲台に呼応し、内間、安謝、天久一帯の米軍陣地を「背面攻撃」したといわれる。

海軍電報について（解説）

この小冊子に掲載した「海軍電報」は、沖縄戦中の昭和二十年三月二十四日から六月十一日まで、日本海軍沖縄方面特別根拠地隊（略称・沖根、沖縄方面根、など）から上部機関である連合艦隊や、天一号作戦に関係する各部隊へあてて発信した機密電報の一部である。

沖縄戦当時の沖縄守備軍は、陸軍を主力とする第三十二軍（司令官・牛島 満中将）が配備されており、海軍の沖根（司令官・太田 實少将 兵力約一万人）もその指揮下に編入されていた。

沖根の警備（守備）区域は、本村の饒波川以南の字高安・字宜保・字与根を結ぶ線の西側・小禄半島に本拠を置いていた（図1参照・小禄地区戦闘経過要図 第二復員局残務処理部 昭和二十二年十月調整）。

同時に馬天港や、中城湾（金武湾）、運天港に水上基地を建設して特攻艇や射堡（陸上から魚雷を発射する装置）などを配備していた。さらに、偵察や南方作戦の継基地として小禄飛行場の拡張整備や、与根滑走路の建設、石垣、宮古の飛行場整備を進めていた。

装備は、表1の「特記事項」に見るように極めて貧弱

なものであった。たとえば、機関銃二百三十六丁、大砲二十五門（うち瀬長島に四門配備）、急造爆雷二千発、手りゅう弾は兵員一人に二〜三個、噴進砲十九門、迫撃砲五十門。小銃は兵員の三分の一（約三千丁）で、残りの兵員には武器としてヤリを支給していた。

その武器も新品はほとんどなく、中古品（転用）か、もしくは手作りであった。たとえば、機関銃は飛行機から取り外したものの、大砲は廃棄した軍艦等から台座ごと取り外したりサイクル、対戦車用爆雷は爆弾の火薬と信管を利用した手製、手りゅう弾も二十五ミリの薬きょうや空き缶に火薬を詰めた手製であった、という。

その沖根部隊から米軍上陸時までに五百人を割いて陸軍へ派遣していた。さらに、五月四日の総反撃（失敗・中止）以降陸軍の要求に応じて精鋭部隊といわれた迫撃砲の全部（五十門）と兵員、小銃の三分の一（約一千丁）を携行させ、計二千五百人を陸軍へ派遣した。

したがって、残りの陣地要員と貧弱な装備で小禄飛行場や、小禄村、豊見城村の砲台や陣地壕を拠点に小禄半島の守備に当たっていた。

一方、上部機関である連合艦隊は、昭和二十年三月二十五日（米軍の慶良間上陸前日）に、大田 實沖根司令官

あてに、次の指令を発している。

「天一号作戦ノ全般作戦指導ニハ 貴司令部ノ戦況速報並二意見ヲ有力ナル資料トセラレルニ付 イヤシクモ作戦資料トナルベキモノハ細大トナク速報アリタシ」

(注・天一号作戦とは、南西諸島及び台湾に敵が来攻した場合の航空作戦。作戦発動は、米軍が慶良間諸島に上陸した三月二十六日午前十一時二分)

沖根は、その指令を忠実に実行し、玉砕二日前の六月十日までに約三千通の暗号電報を発信しつづけた。当初は小禄村赤嶺の司令部に四十人の電信員と、二十人の暗号員を配置し、二十四時間態勢で送・受信したようである。その後、小禄地区へ米軍が侵攻したのに伴い六月六日に字豊見城西側の七四高地(現在の海軍司令部壕跡)に司令部と通信班を移した。

沖根司令官名で発信された暗号電報の内容は、主として米軍機の機種、機数、攻撃地点(目標)や、米艦船の種類、所在(移動)、攻撃時間や目標など、いわゆる敵情報告が多い。また、陸上での局地的な細かい戦闘状況や、海軍部隊の生々しい戦闘報告も含まれている。

この電報は、各見張り所や陣地から望遠鏡で「目視」に

より確認できた事実を正確に報告している姿勢がうかがえる。特に、暗号による短い電文という制約もあるが、時刻や場所、米軍の侵攻状況と日本軍の抵抗の様子をリアルタイムで伝えている。

また、戦史や戦記ものにありがちの抽象的な表現や、推測、誇張、修飾語がこの電文には見られない。そのことが却って臨場感を高め、さらに信頼性を高める要素にもなっていると思われる。海軍電報は、沖繩戦でも語られる機会も少ないが、沖繩戦の一局面を証言する第一級の戦争資料である。

断片的ではあるが、六月初旬に米軍地上部隊が村内へ進攻して来る状況が、この電報から読み取れる。もちろん、この村内の戦場の下には多くの村民が周辺の壕や岩かげ、墓の中に傷つきおびえたケモノのように息をひそめ、隠れていた事実を忘れてはならない。

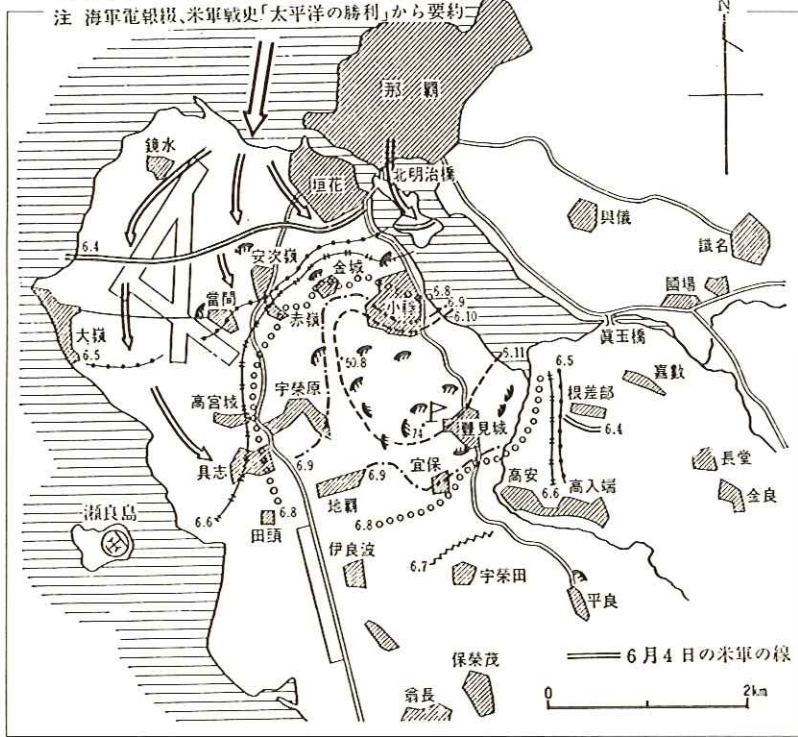
以上のような沖根の状況や、本村の海軍司令部壕跡、瀬長島、各集落の位置関係を想像しながら読み進めると、戦場になった豊見城村の姿が部分的ではあるが鮮やかに見えてくる。

(宜保喜久)

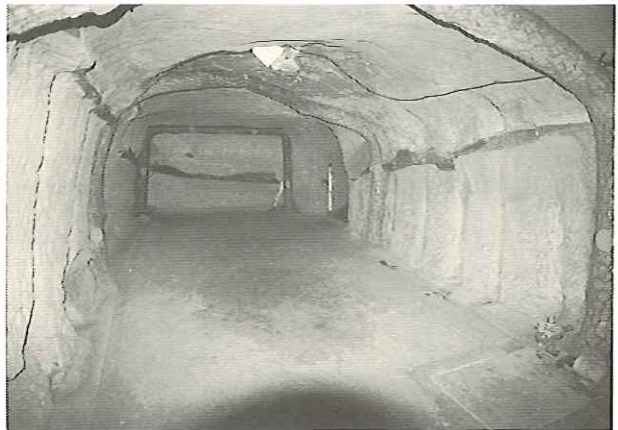
<図1> 二十年六月四日~十三日の小祿地区戦闘経過要図

注 海軍電報綴、米軍戦史「太平洋の勝利」から要約

沖縄方面海軍作戦（防衛庁戦史室）より



沖縄方面特別根拠地隊司令官 大田 實少将



宇栄見城の海軍司令部壕の暗号（通信）室
（提供・登川吉雄氏）

〔表1〕沖縄本島所在海軍部隊配備表（「沖縄方面海軍作戦」より）

| 陸軍派遣隊 | 国上地区隊 | 隊 区 地 域 小 | | | | 部隊名 | 兵力 | 配備地区 | 数 量 | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-----------|-------|------|-------|--------|-----|------|---------|-----|-----|---|--------------------------------------|---------|-------|-------|---|---|---|------|-----------------|----|
| | | 護 隊 | 礎 部 隊 | 山 根 | 巖 部 隊 | | | | 沖 根 部 隊 | 小 銃 | 機 銃 | 砲 台 | 噴 進 砲 | 急 造 爆 雷 | 手 榴 弾 | 迫 撃 砲 | | | | | | |
| 五〇〇 | 六〇〇 | 八〇〇 | 三〇〇〇 | 三〇〇〇 | 一五〇〇 | 陸軍所定地区 | B 区 | C 区 | A 区 | D 区 | 不明 | 七、七〇〇 七、七〇〇 七、七〇〇 七、七〇〇 七、七〇〇 | 二五〇〇 二五〇〇 二五〇〇 二五〇〇 二五〇〇 | 〇 | 〇 | 六 | 二 | 六 | 五 | 二〇〇〇 | 各隊共 乃至三 個 | 五〇 |

□特カ 記

(一) 二〇耗、一三耗、七、七耗機銃は航空機用を地上旋回銃に改造せるもの多し

(二) 噴進砲は発砲用として「レール」式砲架台を新製して使用する。

(三) 急造爆雷は爆弾用黄色火薬及信管を以て五、七、一〇疋のものを新製し対戦車兵器として使用する。

(四) 手榴弾は二五耗機銃莖及告詰空缶に黄色火薬及ダイナマイトを填充したるもの。

(五) 右配備兵力中小緑地区隊より約二五〇〇名を五月初旬以降陸軍協力部隊として派遣此の際同隊迫撃砲の全部及其他軽兵器の約三分の一を携行せしむ。

凡例

- 一、ここに掲載した「海軍電報」は、防衛庁防衛研究所図書館に所蔵されている「電報綴 南西諸島」及び「南西諸島方面 電報綴」の原本から引用したものである。
- 二、電報は乱数表にもとづいた暗号(符号)で打電されたものであるが、電報綴には暗号を解読し「平文」に訳されたものが収められている。
- 三、「発」発信者は、沖根司令官、小禄航空基地(九五一空)、沖縄島南端見張所、石垣航空基地、宮古島航空基地、共符(海軍の共通)、陸軍情報(那覇、球参電)、台湾、徳之島などの基地や部隊が発信した電報。
- 四、電文にある略号・符号などの主なものは次の通り
ア、右上の漢数字「三 二四」は、電報発信の月日「三月二四日」のこと。
イ、受信「一五三〇」とあるは受信(発信も同時)で、午後三時三〇分のこと。
ウ、訳始は、受信した暗号電報を翻訳し始めた時間。
エ、「電」は電報を受信した一連番号。同じく「機密第〇〇〇〇番電」や末尾の「通〇〇〇〇〇〇〇〇」も内容別や性質別の一連番号。

オ、「作概〇」「航本」は、作戦概報、航空本部などの略

号で、性質別に種別したものと思われる。

カ、「作戦緊急」「特急」「緊急」「至急」「閑送」とあるのは、取扱の優先種別。

キ、「傍」は、通信の宛先とは別の「東京通信所」や「連合艦隊着信艦所」など、他の無線所で傍受した電報をさす。海軍電報綴に保存されているのは、ほとんど傍受されたものである。

ク、「着」は、電報の着(受)信部所、あて先。「天一号作戦部隊」は海軍の沖縄作戦参加部隊。陸軍は「菊水作戦」と呼んでいた。「GF」は連合艦隊の略号。

ケ、「報」は、関係する部隊や上級機関に報告すべき内容であることを示す。

コ、電文末尾の行は、電報を受信(傍受)した機関名、電波の周波数、受信または翻訳の担当を
五、本文中に出てくる敵機の略号は次の通り

- サ、「F六F」は、艦載(上)戦闘機・グラマン。
- タ、「F四U」は、艦載(上)戦闘機・コルセア
- ナ、「TBF」は、艦上重爆撃機・アベンジャー
- ハ、「SB」は、水上爆撃機。
- ニ、「地点ウム」等は、海上の戦域・区域を示す。

1 三月二四日 受信一一五五 訳了一二二五

訳始一二一五 電一一〇一七 作概〇

緊急 ⑨ 小禄航空基地

⑩ 第一機動基地航空部隊戦闘概報着信艦所

機密二四〇九五八番電

① 区哨戒三機〇六〇〇発信一一九度進出三〇哩(注・五六キロ)ニシテ敵水上艦艇ノ猛射ヲ受ケ反転着陸未夕発信シ得ズ

他ノ二機〇八五二迄連絡アリタルモ消息ナク未帰還。

通一二五三八 於十四(七八七五kc) 一KFGB放

岑(土谷)

(注) 一哩は、一・八五二キロメートル。

2 三月二四日 受信一三〇〇 訳了一三四五

訳始一三二五 電一一〇四九 作概〇

作戦緊急 ⑨ 小禄航空基地

⑩ 鹿屋航空基地

機密第二四〇八四九番電

二BB戦闘連報第二号ノ二(三月二十四日)

〇八三〇敵艦船ノ状況(見張所目視)左ノ通

次々ニ出現セルモ集結シアイオワ型戦艦六隻 駆逐艦一二

隻 小禄ノ一二〇度二〇哩進路不定。

〇八四五 一部八艦砲射撃ヲ開始ス目標沖繩島南端海岸。

通 一二六三五 於十四(七八七五kc) 一KFGB放

岑(土谷)

3 三月二四日 受信一九一〇 訳了二〇〇〇 作概〇

訳始一九二五 電一一三〇五

⑨ 小禄航空基地

⑩ 鹿屋航空基地

機密第二四一五三〇番電

敵艦隊ハ其ノ後無暗ト針路並ニ隊形(四群トナリ集結又ハ三分ス)ヲ変更セリ、一五二五与ザ岳ノ一四五度五〇 戦艦三ヲ先頭ニ之字運動ヲ行ヒ高速ヲ以テ南東方ニ退却中ナリ(隊形針路性格ヲ保シ難シ)。

通一二九五五 於十四(七八七五kc) 一KFGB放

日高(西谷)

4 三月二四日 受信二三四〇 訳了〇〇四〇 作概〇

訳始〇〇〇〇 電一一二六五

一一二六六

⑨ 小禄航空基地

⑩ 一機動基地航空部隊戦闘概報着信艦所

機密第二四一六五四番電 二分ノ一、二

W二BB戰聞概報第二号(三月二十四日)

一、〇六四五ヨリ一七二五迄来襲機数小禄延F六F二八機 F四U八〇機 TBF四五機 SB二〇五四〇S二〇五計四〇二機 北飛行場出現機延七〇〇機 中飛行場一六六機各飛行場使用ニ差支ヘナシ 小禄二五耗機銃陣地ニ直撃戦死一名負傷一名北見張所負傷者一名彗星一機未帰還

二、彗星所在機数(使用可能機数)

イ小禄二(一) 口宮古一(不明) ハ徳之島一(不明)
三、其ノ他速報通

通一二九〇四(三九三七、五kc) 一KFGB放
通一二九三〇 於一四 清水・岑(杉本)

5 三月二五日 受信〇九三〇 訳了一〇三一 作概〇

訳始〇九四二 電一一三九二

⑤ 小禄航空基地
⑤ 鹿屋航空基地

機密第二五〇八〇〇番電

敵ハ一部視界外ニ去リ目下与ザダケノ二〇〇度ニB二C
二D七 掃海艇一魚雷艇ラシキモノ一隻西慶良間列島砲
撃中。

通一三〇四七 於一五(七八七五kc) 一KFGB放
清水(吉田)

6 三月二五日 受信一二五五 訳了一三二三 作概〇

訳始一三〇五 電一一四六六

⑤ 小禄航空基地

⑤ 鹿屋航空基地

機密第二五一〇一五番電

敵艦艇ハ次第二西方海面ニ移リツツアリ沖繩島西海岸ヲ砲
撃スルモノト認ム 情報ニ依レバ一部兵力ヲ以テ渡嘉敷島
上陸開始セリ。

通一三一〇 才一四(七八七五kc) 一KFGB放

富田(木下)

7 三月二五日 受信一七〇八 訳了一七一八 作概

訳始一七一八 電一一六二六

⑤ 作戦緊急

⑤ 東通・佐鎮・五航空艦隊 ⑤ 沖繩方面根 ⑤ 連合艦隊

沖繩方面根

⑤ 高警・四海上護衛隊

機密第二五一五五三番電 二分ノ一、二

沖根戰聞速報第八号

一、一五〇〇神山島附近駆逐艦一隻掃海中ルカン 礁
附近ノ艦艇ハ陸上火煙及連絡不良ノ為不明

二、飛行機来襲状況〇八三〇ヨリ一五〇〇迄延二〇〇午

後相当熾烈トナル

戦果 撃破二機 被害戦死三 重傷一 十二糎高角砲

一 被弾使用不能大安丸至近弾大破△船沖ノ山丸沈没

小禄部落炎上中

三、慶良間列島方面本朝来砲声断ヘズ状況不詳。

通一三三三七 天二Bケ六(九八三〇kc) 佐放

一三二四九

岩佐・西村(鈴三・小沢)

8 三月二五日 受信二〇一五 訳了二一五一 作概〇

訳始二一〇〇 電一一六五六

作戦緊急

沖繩根

第五基地航空部隊・高雄・新竹各航空基地

小禄航空基地

機密第二五一六五三番電

五FGB電令作第三三三号関連

敵ハ渡力シキ島 座間味島 アカ島ニ上陸 目下上陸戦

闘中ニシテ本夜以降状況ニ依リ慶良間列島陸軍シン洋隊

ハ沖繩本島ニ転進スベキヲ以テ攻撃目標ヲ艦船トセラレ

度希望ナリ久場島ニハ上陸シ居ラズ又陸軍機ハ二一〇〇

ヨリ二二〇〇間同列島附近敵艦船ノ攻撃ヲ実施ス。

通一三三三七 於十四(三九三七、五kc)

一KFG B放 関根(森田)

9 三月二五日 受信二〇二二 訳了二〇五四 作概〇

訳始二〇四〇 電一一六六四

作戦緊急

沖繩根

連合艦隊□・東通・佐鎮・五航空艦隊□

沖繩根

高警・四海上護衛隊

機密第二五一九二二番電

一八三〇ノ敵情(陸軍情報ヲ含ム)

第一群 北飛行場ノ西方一〇軒戦艦四隻 巡洋艦二隻

駆逐艦一〇隻 計十六隻

第二群 慶良間ノ周辺巡洋艦四隻 駆逐艦十二隻計十六

隻

第三群 ミナト川沖戦艦三隻一七三〇以降艦砲射撃ナシ。

通一三三四二 於十四(B) 佐世保 星野(□□)

10 三月二六日 受信一五三二 訳了一七〇〇 作概〇

訳始一六〇〇 電一二〇五六

作戦緊急

供符

佐鎮・連合艦隊□

高雄警備府

機密第二六一三一六番電

沖繩根拠地隊戦闘速報第一一(?)号

○九〇〇ヨリ一三〇〇迄延一一〇機北・中・小禄飛行場
及糸満・与那原部落攻撃戦果ナシ。被害動力船住吉丸被弾
航行不能 戦死工員一名 一三〇〇現在北飛行場及湊川
方面二砲声ヲ聞ク

通一三七五六 天一Bケ四(六七kc) 佐通放

原(松山)

11 三月二六日 受信一七一一七 訳了一八一五 作概○

訳始一七四一 電自一二二七五

電至一二二七七

作戦緊急

⑧ 共符

⑥ 東京通信隊・佐鎮・五航空艦隊□

連合艦隊□・沖根

⑦ 四海上護衛隊□・高雄警備府

機密第二六一五二七番電 三分ノ一、二、三

発 沖根司令官

一、敵八二十三日以来特ニ沖繩本島南部ニ対シ爆撃ヲ反
覆シ且二十五日以来昼夜連続熾烈ナル艦砲射撃ヲ併行
中ナリ。

二、二十五日慶良間列島ニ上陸ヲ開始シ本朝来トヲ揚塔
スルト共ニ那覇港外ヲ中心トスル南北各一〇哩海面ノ
掃海ヲ連続 就中小禄飛行場ノ南方五哩附近沿岸ノ精

測ヲ行ヒ水路設標ヲ実施セリ。

三、南大東島ノ電探八本日一三一五同島ノ西方二〇〇軒

附近ニ敵水上艦艇ノ大部隊ヲ探知輸送船団ノ算大ト認ム。

四、前記ノ状況ヨリシテ敵ハ「ケラマ」ニ拠点ヲ占メ二

十七日ヨリ本島ノ南部西岸那覇糸満間ニ上陸ノ算極メ

テ大ニシテ北・中飛行場及東岸ミナ(ト)川附近正面

之二次グモノト判断ス。

五、我未ダコウリウ(蛟龍カ)ヲ使用セル外慮戦セズ。

通 一三七九七

一三八〇三 於一四(六七kc) 佐二放

一四〇四七

宮崎・清水(金森)

12 三月二六日 受信二三二六 訳了〇一一〇 作概○

訳始〇〇一五 電一二二七八

⑧ 共符

⑥ 東通・佐鎮・連合艦隊□・第五航空戦隊□

⑦ 高警

機密第二六二一三〇番電 二分ノ一

沖根戦闘速報第一二号

一三〇〇ヨリ一八〇〇迄敵飛行機来襲延六〇〇機各飛行
場 砲台系等ヲ攻撃 一四三五ヨリ一〇分間小禄地区高
角砲台敵ノ艦砲射撃ヲ受ク。

通二三九八七 天二B (四九一五kc) 佐通

浅沼 (福田)

13 三月二八日 受信一〇一一 訳了一〇二三 作概〇

訳始一〇一七 電一二九八八

作戦緊急

⑧ 沖繩根

⑦ 東通・佐通・連合艦隊□・五航空艦隊□・

沖繩甲標的隊第一基地・第二七魚雷艇隊

機密第二八〇八五四番電

北飛行場沖小型輸送船一九游弋中掃海艇一四海湾附近掃海中尚此ノ外小型輸送船アル模様ナルモ視界不良ノ為詳細不明

通一四八八一 於一四 (九八三〇kc) 佐二放

清水 (小林)

14 三月二八日 受信一五五二 訳了一八二〇 作概〇

訳始一六〇五 電一三三二二

一三三二二

⑧ 沖繩根

⑦ 連合艦隊□・佐鎮・東通・五航空艦隊□

機密第二八一二四七番電 二分ノ一、二

沖根戦闘速報第一五号

一、視各内艦艇状況

(一) 小禄沖戦艦二、巡洋艦三、駆逐艦五、掃海艇七、輸送船六 (一一三四)

(二) 北飛行場沖戦艦五、巡洋艦五、駆逐艦六、掃海艇二八 (一一三九)

(三) 湊川沖戦艦二、巡洋艦一、駆逐艦四、空母一 (一〇三〇)

二、一〇三五北飛行場掃海艇一隻沈没

三、一一二五ヨリ小禄地区一二三〇ヨリ北飛行場地区艦砲射撃開始

四、〇六四二ヨリ一二〇〇迄ノ小禄地区来襲機数延一〇三損害軽微

(東通註 本電誤字多シ遅延)

通一五〇二九 天二Bケ六 (九八三〇kc) 佐二放

楠本・田中 (木下)

15 三月二八日 受信一八〇〇 訳了二〇〇〇 作概

訳始一八三〇 電一三三二九六

至急

⑧ 沖特根

⑦ 二七魚雷艇隊

⑧ 連合艦隊□・東通・伊一八三・五航空艦隊□

機密第二八一四二九番電

発 根拠地隊

第二七魚雷艇隊八困難ナル状況下ニ突撃ヲ敢行巡洋艦二隻ヲ轟沈一駆逐艦一隻ヲ撃破スルノ成功ヲ収メタルハ大ニ可ナリ。

通 一五一四四 天二Bケ六(B) 佐世保 今村(猪狩)

16 三月二九日 受信〇〇三〇 訳了〇四一一 作概〇

訳始〇〇五一 電一三四〇八 航本

至急 小禄航空基地

⊙ 一機動根拠地航空部隊・鹿屋空基地

南東方面部隊戦闘概報着信艦所

機密第二八一九五七番電

一、砲爆撃ニ依リ北飛行場當分使用不能 中飛行場使用可能(但敵上陸開始前陸軍ニテ破壊ス) 小禄飛行場〇

一〇〇迄ニ応急修理西滑走路使用可能

二、明日彗星一機使用可能。

通一五三五一 呂一Bケ五(三〇五二kc) カニガヤ

西村(飯田)

17 三月二九日 受信一〇四二 訳了一一四〇 作概

訳始一一一〇 電一三五九九

一三六〇〇

作戦緊急

⊙ 沖繩根

⊙ 東京通信隊・佐世保通信隊・六艦隊□

連合艦隊□・三航空艦隊□・五航空艦隊□

機密第二九〇九三三番電 二分ノ一、二

視界内敵艦船ノ状況

一、ヨザタケノ一九〇度ヨリ二〇〇度ノ間距離五〇軒特

航空母艦七 戦艦二(カムフラージュ)ナシアリ)

LST二 LCT一六 何レモ中飛行場附近ニ集結ス

ルモノノ如シ

二、瀬長島砲撃中 戦艦三 巡洋艦二 掃海艇二

三、北飛行場那覇方面戦艦六 巡洋艦八隻 軽巡洋艦三

隻 駆逐艦五隻 掃海艇一八隻 小型舟艇八隻。

通一五五二三 テニBケ六(九八三〇kc) 佐二放

一五五二二 藤野、仲栄(塩田)

18 三月二九日 受信二〇二〇 訳了二二二〇 作概〇

訳始二〇五一 電一三八〇七

一三八〇八

作戦緊急

⊙ 沖根

⊙ 東通・三、五各航空艦隊□・六艦隊□

連合艦隊□・佐鎮

機密第二九一七三八番電 二分ノ一、二

一四〇〇視界内敵情

一、中飛行場沖距岸一五軒以内戦艦五隻巡洋艦四隻駆逐艦二〇隻掃海艇七隻輸送艦一隻輸送船一八隻駆逐潜水艇八隻飛行場射撃及掃海中

二、那覇港外駆逐艦一隻掃海艇一〇隻掃海中

三、瀬長島沖距岸一〇軒戦艦一隻巡洋艦一隻飛行場射撃

中

四、湊川沖距岸一五軒以内戦艦二隻駆逐艦五隻駆潜水艇

一〇隻掃海艇四隻LCE四湊川附近射撃中

五、直衛機ナシ。

通一五八四二 呂一Bケ五(B)GF

一五八五五(六七kc)佐二放 長井・片山(小沢)

19 三月三〇日 受信〇一二〇 訳了〇一四八 作概〇

訳始〇一三五 電二四〇〇九

作戦緊急

沖繩方面根

第三、五各航空艦隊□・佐鎮・沖繩根

東京通信隊

機密第二九二二三二六番電

一、敵八未ダ沖繩本島ニ上陸シ居ラス

二、昼間西海岸ニ在リテ各飛行場一体ヲ砲撃中ナリシ戦

艦七、巡洋艦九ヲ基幹トスル敵艦艇八一七〇〇北西方

二避退ニ〇涅圈内ニアリト判断セラル。二三二六

通一六〇五二 於十四(B)佐世保 山本(小野田)

20 三月三〇日 受信〇四三四 訳了〇六三〇 作概

訳始〇五一〇 電一四〇一九

一四〇二〇

沖繩根

沖繩根

連合艦隊□・一五一航空隊

機密第三〇〇三七番電 三分ノ一、二、三

発 司令官

天一号作戦既ニ発動セラレ皇国防衛ノ大任ヲ有スル吾等正二秋水を払ヒテ決然起ベキノ秋ナリ 夫レ元軍十萬モ恐ル所ナクヨク之ヲ西海ニ撃退セシ時宗ノ胆忠烈千古楠氏ノ訓ヘニアル聖将ノ大信念コソシノバザルベケンヤ 驕敵今ニシテ撃タズンバ留所無カラン眞ニ皇国興廢ノ大任ハ吾等ノ双肩ニアリト言フベシ 諸士良ク各自ノ重責ヲ思ヒ盡忠更ニ訓練ヲ重ネ必勝ノ信念ニ徹シ眞摯自愛勇戦奮闘以テ皇恩ニ副ヒ奉ランコトヲ期セヨ。

〔電信課註 本紙ハ再配布前紙ト引換ラレ度〕

通自一六一二五・至一六一二七 呂二Bケ六(B)

佐世保 広田・岩佐・高橋(酒卷)

21 三月三〇日 受信一六三〇 訳了一八三〇 作概

訳始一七三〇 電一四六五八

作戦緊急 沖繩根

天一号作戦部隊

機密第三〇一三三七番電 二分ノ一

戦闘速報第一七号

一、一二〇〇沖繩本島北飛行場以南海面敵艦船八戦艦五隻・巡洋艦九隻・駆逐艦四隻・掃海艇三五隻・輸送船一隻・駆潜艇一隻・小舟艇四隻計五九隻ニシテ北飛行場那覇港小禄飛行場ニ対シ緩慢ナル艦砲射撃及掃海ヲ実施中

二、黎明ヨリ一二〇〇迄ノ来襲飛行機延約一一六機

〔電信課註 本電二分ノ二既配布〕

通一六四五〇 天二Bケ六(九八三〇kc) 佐二放

田中(□□)

22 三月三〇日 受信二一二〇 訳了〇三二六 作概〇

訳始〇〇三七 電一四五九一

作戦緊急 小禄航空基地

鹿屋航空基地

機密第三〇一九五〇番電

中飛行場西方一群(戦艦三隻超巡洋艦一隻巡洋艦六隻其

ノ他約十隻) 糸満西方一群(戦艦二隻超巡洋艦一隻巡洋艦二隻其ノ他四隻)ト合同西方ヨリ當地ノ三五〇度方向視

界外ニ去ル針路三〇〇度

糸満南東方一群(戦艦二隻其ノ他約七隻) ハ一八五〇

一九〇度方向視界外ニ去ル針路南

毎夕視界外ニ去リタル後ハ朝迄去リ敵ノ動静ヲ偵知シ得

ザル狀況ナルモ極力偵知ニ努メ通報ス。

通一六八一六 オ一五(三九三七、五kc) 一K F

清水(木下)

23 三月三一日 受信〇二一七 訳了〇七〇〇 作概

訳始〇五三〇 電一四六四三

沖根

二七魚雷艇隊

天一号作戦部隊・佐鎮

機密第三〇二一四一番電

第二七魚雷艇隊ハ敵ノ熾烈ナル防禦砲火ヲ冒シ突撃ヲ敢

行巡洋艦大型駆逐艦各一隻ヲ撃沈セルハ當司令部ニ於テモ

大火柱ニ依リ確認セル所ニシテ再度ノ戦果ハ美事ナリ。

通一六七八四 天一Bケ六(六七kc) 佐二放

末光(細川)

24 三月三十一日 受信一〇五三 訳了一一三〇 作概

訳始一一〇三 電一四七六六 航本

作戦緊急 ⑤ 沖根

⑤ 天一号作戦部隊

機密第三一〇八四六番電

一、敵八〇八一〇舟艇(約三四隻陸両用戦車一四ヲフク

ム)ヲ以テカミ神(山カ)島ニ上陸ヲ開始尚前島ニ上陸

中

二、〇四〇〇頃ヨリ敵機二機上空哨戒セル外夜間敵機ナシ

三、艦艇約七〇隻出現〇八〇〇ヨリ各飛行場砲撃並ニ掃

海中

四、當方面天候海上静穏飛行ニ適ス。

通一六九八一 於十四(九八三〇kc) 桜井(飯田)

25 三月三十一日 受信一三〇九 訳了一三四〇 作概〇

訳始一三二七 電一四五九二三

一四五九二四

作戦緊急

⑤ 天一号作戦部隊

機密第三一一〇二三番電 三分ノ一、二

戦闘速報第十九号

視界内敵艦船状況(〇八五〇)

一、カ手ナ沖戦艦五(内四ハ巡戦又ハ重巡ノ疑) 巡洋艦

六駆逐艦一二掃海艇六輸送船一上陸用舟艇五戦艦巡洋

艦八北中飛行場砲撃中ナルモ上陸ハナシアラズ

二、那覇沖巡洋艦四駆逐艦一上陸用舟艇一六輸送艦五上

陸用舟艇ハ何レモ神山島ニ揚塔中ニシテ水陸両用戦車

数両ハ既ニ上陸同島ヲ重砲陣地化スル企図明ラカナリ

三、糸満沖巡洋艦一駆逐艦一行動活発ナラズ。

(電信課注 本電三分ノ三未着)

通一七〇一一 於一四(九八三〇kc) 佐二放

一七〇四二

安彦・森(小沢)

26 三月三十一日 受信一四一一 訳了一五〇〇 作概〇

訳始一四二五 電一四八七五

一四八七六

作戦緊急

⑤ 天一号作戦部隊

機密第三一〇九三一番電 二分ノ一、二

W二AB戦闘速報四ノ一(三月三十一日)

〇三四〇ヨリ電波探信ニ出現セシ敵艦船ハ 〇六〇〇扨

曉ト共ニ當基地西方ヨリ近接 〇六三〇 二八〇度乃

三一〇度間八杆ニ上陸用舟艇一七隻二五杆ニ約六〇隻

(視界不良ノ為艦種不詳) 其ノ他前日ト略同様ト推定セ

ラル艦船ヲ伴ヒ低速ヲ以テ東進一部北中飛行場方面那覇

沖繩方面根拠地隊司令部附近ヲ砲撃戦爆二二機ヲ以テ

銃爆撃 ○七四五頃ヨリ神山島(那覇ノ三〇〇度二二籽)

二水陸両用戦車一五六発(両)約二〇隻二先ダチ人員上

陸セリ ○八三〇神山島附近ノ上陸舟艇ヲ除キ他ノ艦艇

ハ漸次ヨミ谷山方面ニ進ミ主力ヲ以テ北中飛行場方面ニ

一部ヲ以テ那覇小禄方面ニ上陸ノ対勢ヲトルニ至レリ

○九三〇ニ至ル迄未ダ上陸セズ我方発砲セズ。

通一七〇三六 於一五(七八七五kc) 一k F G B放

一七一〇七 日高・仙波(小沢)

27 三月三十一日 受信一五三八 訳了一五五七 作概○

訳始一五五〇 電一四八九四 航本

緊急

Ⓢ 小禄航空基地

Ⓢ 宮古空基地・石垣空基地・鹿屋空基地

機密第三二一五〇五番電

薄暮ヲ利シ彗星二機ヲ附近敵艦艇ニ対シ奇襲攻撃(帰投

基地小禄情況ニ依リ宮古石垣)実施ノ予定。

通一七一二三 於一四(六一〇五kc) カ二ケ口

日高(島田)

28 三月三十一日 受信一六五九 訳了一七二一 作概○

訳始一七一二 電一四九四一

作戦緊急

Ⓢ 沖繩根拠

Ⓢ 天一号作戦部隊

機密第三一一六二四番電

一六〇〇視界内敵艦船情況

戦艦八(内六隻ハ巡戦又ハ重巡ノ疑アリ)巡洋艦八隻駆

逐艦七隻其ノ他小舟艇四〇隻ニシテ各飛行場及陣地ニ対

シ連絡緩慢ナル艦砲射撃中。

通一七一五七 於一四(九八三〇kc) 佐二通放

清水(河田)

29 三月三十一日 受信一七二三 訳了一九四二 作概○

訳始一九三〇 電一五〇〇一

作戦緊急

Ⓢ 沖繩根拠

Ⓢ 天一号作戦部隊

機密第三一一八三三番電

三十一日二四〇〇ヨリ那覇港ノ西方一〇籽神山島敵重砲

陣地ニ対シ砲撃後〇〇二〇ヨリ挺進切込ヲ実施スルニ就

キ當方面攻撃予定機ヲシテ同時刻ニ到達協力セシメラレ

度。

通一七二三九於一四(六四kc) 佐二放 山本(吉田)

四月

30 四月一日 受信〇二〇四 訳了〇三〇〇 作概

訳始〇二三五 電〇〇一二九

〇〇一三〇

至急 沖繩特根

天一号作戰部隊

機密第三一一九四三番電 二分ノ一、二

一、本日〇四〇〇ヨリ戦闘機二機以後延約二〇〇機ヲ以

テ主トシテ各飛行場味方陣地ヲ執拗ニ銃爆撃ス

二、敵八神山島ニ重砲四 戦車三〇ヲ揚塔ヲ夕刻試射ヲ

実施セリ附近水上艦艇主力八一七三〇銃撃ヲ止メ西方

ニ避退セリ

三、戦果ナシ、被害十二軽砲掩蓋及照準器破壊 三十日

戦果被害敵飛行機撃墜五機 撃破五機以上 戦死者一七

四 重傷七、十四糧砲十二糧高角砲各一使用不能

(以上三十日分)

通口七〇八四 天二Bケ六(四九一三kc) 佐二放

仲原・田中(口沢)

31 四月一日 受信〇八五二 訳了〇九一五

訳始〇九〇二 電□□□□□

作戦特別緊急 沖繩方面根

天一号作戰部隊

機密第〇一〇八〇四番電

一、那覇沖敵輸送船約六〇隻ヨリ水陸両用戦車多数ヲ以

テ北飛行場方面ニ上陸ヲ開始中 〇八〇〇

二、北飛行場上陸予想点ニ対スル艦砲射撃ハ熾烈ヲ極メ

ツツアリ尚朝来飛行場ヲ銃爆撃活発ナリ 〇八〇四。

通二二二 於十四(九八三〇kc) 佐二放 清水(土谷)

32 四月一日 受信〇九四四 訳了〇一〇一五 作概〇

訳始一〇〇一 電〇〇二一一

作戦特別緊急 沖繩方面特根

第七基地航空部隊戦闘概報着信艦所

天一号作戰部隊・一機動基地空部隊

機密第〇一〇八三六番電

一、敵八本朝来北飛行場及本島南端東部湊川ニ対シ上陸

ヲ開始セリ

二、貴機密第三一一三一四番電ノ如ク敵ノ陸上基地獲得

スルニ先ダチ速ニ母艦群ヲ撃滅スルハ本作戦ノ要訣ナ

リト思考セラル御成功ヲ切ニ期待ス。

通二四五 於一四(九八三〇kc) 佐二放 宮崎(吉田)

33 四月一日 受信一〇二八 訳了一〇五二 作概〇

訳始一〇四三 電〇〇二四二

作戦緊急 ⑤ 沖繩方面根

⑤ 天一号作戦部隊

機密第〇一〇九五八番電

神山島敵二〇糎級加農砲六門小祿基地射撃開始〇九四七。
通二六四 於十四(九八三〇kc) 佐二放 宮崎(雨谷)

34 四月一日 受信一九五〇 訳了二〇三八 作概〇

訳始二〇一七 電〇〇四八九

作戦特別緊急 ⑤ 沖繩方面根

⑤ 天一号作戦部隊

機密第〇一一八二一番電

一、北中飛行場正面ニ上陸セル敵ハ推定二個師団ニシテ
一八〇〇迄座キ味・西原・中飛行場東側・桃原・北夕
ニヲ結ブ線ニ達ス

二、湊川方面ノ敵ハ戦車二〇台ヲ以テ距岸八〇〇米迫リ
タルモ上陸スルコト無ク避退セリ。

通六三七 於十四(四九一五kc) 佐二放 望月(雨谷)

35 四月一日 受信二二一六 訳了二二五〇 作概〇

訳始二二四〇 電〇〇五四二 航本

⑤ 小祿航空基地

⑤ 一機動基地航空部隊・鹿屋・喜界・

石垣各航空基地

機密第〇一一九三二番電

小祿飛行場ハ神山島敵砲台ノ集中砲火ニ在リ當分使用不能。

通七二二 才一五(四九一五kc) 佐通放 富田(田中)

36 四月二日 受信〇〇三〇 訳了〇一五三 作概〇

訳始〇一〇三 電〇〇六二〇

作戦緊急 ⑤ 沖根

⑤ 天一号作戦部隊

機密第〇一二三四番電

戦闘速報第二十一号

一、小祿地区神山島ノ重砲六及戦艦巡洋艦駆逐艦各一ト
交戦 来襲機延約二〇〇機戦果撃墜一機

二、北中飛行場方面平安山及マキ港十二糎砲台ハ敵舟艇
及戦車群ヲ猛襲之ヲ撃チ盡ス 戦果被害戦車破壊又ハ
攔坐一五 舟艇撃沈六隻平安山砲台孤軍奮闘指揮官西
川トヲ男兵曹長以下三〇名総員壮烈ナル戦死ヲトグ。

通八九三 於一四(六七kc) 佐通 横井(福田)

37 四月二日 受信一七一三 訳了一九四五 作概○

訳始一七五〇 電〇一一五三

作戦緊急

沖繩方面根拠地隊

天一号作戦部隊

機密第〇二一四一九番電

北中飛行場ニ突入シアル敵ヲシテ之ガ自由ナル使用ヲ封ズル為陸軍ニ於テハ特編一連隊ハヨミタニ山ヲ歩兵一個大隊ハ島ブクロヲ夫夫拠点トシ夜間ノ肉攻等ヲ実施スル如ク定メ作戦中。

通一三五六 天二Bケ六(九八三〇kc) 佐二放

金子(大見)

38 四月三日

受信〇一三七 訳了〇三〇〇 作概

訳始〇二一〇 電〇一三二四

〇一三一五

作戦緊急

沖根

天一号作戦部隊

機密第〇二二二五一番電 二分ノ一、二

沖根戦闘速報第二三号

一、本朝来敵機ノ銃爆撃ハ超低空ニシテ那覇小禄地区延五〇〇機以上海軍側陣地ニ対シテモ記録的熾烈ヲ極ム敵機ノ来襲状況ヨリ判断スルニ新ナル空母ヨリ発艦セ

ルモノト認ム

二、神山島ニ整備セシ敵重砲陣地ハ多数ノ水上艦艇ニ協力上陸軍ノ推進ニ一部ハ味方陸軍陣地オロク飛行場等ニ対シ終日猛烈ナル射撃ヲ実施夜ニ入ルモ尚続行中

三、戦果ナシ(高角砲機銃弾藥欠亡ノ為殆ンド応戦セズ)

被害戦死下士官兵三名十四糧砲一使用不能兵舎二棟破壊其ノ他車両重軽機銃糧食等若干ノ被害アリ調査中。

通 一六六二、一六七二 天二B(四九一五kc)

佐口二放 相沢・大石(吉田)

39 四月三日

受信一六五五 訳了一九二〇 作概○

訳始一七二〇 電〇一九一二

作戦緊急

沖繩根拠地隊

第一基地・第二十七魚雷艇隊

第二掃蕩隊

機密第〇三二三一四番電

電令作第十号

一、敵ハ昨夕残波岬北方眞栄田ニ上陸セルヲ以テ本日東進シキン武湾ニ進出ノ算極メテ大ナリ

二、シン(洋)隊ハ今夜成ルベク速ニ二艇隊ヲ出撃セシメ索敵攻撃セシムベシ

三、敵ノ奇襲ニ対シ遠哨兵ヲ配シ嚴戒両状況ニ依リ陸軍

部隊ト合同攻撃ノ準備ヲ完成スベシ。

通二一〇 天B (九八三〇kc) 佐二放 渡辺 (雨谷)

40 四月四日 受信〇四五五 訳了〇五五五

訳始〇五一五 電〇二〇六三

作戦緊急 ⑤ 沖根

④ 天一号作戦部隊

機密第〇四〇二一〇番電 二分ノ一、二

二〇三〇迄ニ判明セル敵情

(一) 地上戦闘 敵ハ久場荻横安谷屋安仁合ノ線ニ進出中ニ

シテM一テ四乃至五 砲兵約一〇〇ハ西海岸線ニ沿ヒ

南下中ニシテ進出速度ハ三乃至四軒ナリ 戦果人員殺

傷四〇〇 戦車擱坐四

(二) 一三〇〇北飛行場小型機一乃至二着陸一六五四カミ山

島小型機二機着陸一八三〇 一機不時着陸。

通二四五一 天二Bケ六 (四九一五kc)

二四四六 佐二放 清水・加藤 (飯田)

41 四月四日 受信 不詳

作戦緊急 ⑤ 沖繩根

④ 天一号作戦部隊

機密第〇四一一五四番電

発 沖根司令官

第三二軍情報

一、敵ハM一戦車四乃至五輛ヲ先頭ニ兵三〇〇乃至四〇

〇ヲ随伴シ主トシテ海岸道路ニ沿ヒ強引ナル突破作戦

ニ出ル傾向アリ

二、第一戦〇八二〇ノ敵情 大城野ヨリケ新城 普天間

迄ノ間ニ迫撃砲ヲ有スル各一ケ大隊進出シ北谷ニ重砲

陣地 良伝道ニ迫撃砲陣地アリ 尚一部ハ南岸ノ大町

附近ニ迄侵入セル如シ。

通二六四九・二六四一 天二Bケ六 (七八七五kc)

一 K F G B 放 斎藤・西村 (鈴三)

42 四月三日 受信不詳

四日

緊急 ⑤ 共符

④ 第一潜水部隊 (先遣部隊)

機密第〇三一九二三番電 四分ノ一、二、三、四

K B 綜合情報第五〇号

一、敵ハ残波岬ヨリ北谷間ニ上陸 北及中飛行場東端ニ

達シ兵力陸軍三乃至四 海兵三乃至四 二ヶ師団計六

ヶ師団約十萬ト推定 尚後統部隊投入ノ算大ニシテ三

十日レイテヲ出港セル部隊南西諸島東方海域ニ到達セ

ルモノノ如シ 沖繩島周辺ノ艦艇昨日ト大差ナキモノ
ト認ム 三日〇一二戦艦及巡洋艦一〇数隻及駆逐艦
一〇数隻那覇西方一〇軒附近二南下セリ

二、沖繩島飛行場ノ位置左ノ通

(海図第二二六号) 北飛行場 残波岬ノ一六〇度六軒

中飛行場 残波岬ノ一五〇度一二・五軒 南飛行場

那覇ノ三〇度五・五軒 小禄飛行場 小禄ノ西二軒

糸満飛行場(編集者注・字伊良波・与根・座安の現国

道沿の隠密飛行場・約一八〇〇米) 糸満の北二軒

(以下省略)

通二二九八 二二九九、二三〇八 呂一Bケ七

(五二九五kc) 六□□□放 菅原 伊藤 片山(渡瀬)

43 四月五日 受信二〇三〇 訳了二二二三 作概〇

訳始二〇五七 電〇三〇九三

作戦特別緊急 ④ 沖繩方面根

④ 天一号作戦部隊

機密第〇五一七七八番電

一七〇〇視界内敵情嘉手納湾 戦艦一 巡洋艦三 駆逐

艦五 掃海艇四 輸送船八〇漂泊又八碇泊中 那覇沖C一

駆逐艦二遊弋中糸満沖B二 駆逐艦三 W一南下中直衛

機ナシ 神山島敵砲台小禄那覇方面射撃中

通三四八八 天二Bケ六(四九一五kc) 佐二放

相沢(土谷)

44 四月六日 受信一八二五 訳了一九〇〇 作概

訳始一八三〇 電〇三六〇八

作戦緊急 ④ 沖繩根

④ 天一号作戦部隊

機密第〇六一七三三番電

友軍機ノ攻撃ニ依リ嘉手納湾ニ於テ艦種不詳三隻炎上中。

通四二五八 於一五(七八七五kc) 一KFG B放

中川(岡崎)

45 四月六日 受信二二三四 訳了〇〇五五

訳始二三四〇 電〇三八三五

作戦緊急 ④ 沖繩根

④ 沖繩甲標的戦第一基地

第二七魚雷艇隊第一基地

④ 天一号作戦部隊

機密第〇六二一二七番電

電令作第十一号

一、一八〇〇名護湾許田二戦車二〇北上中

二、第二七魚雷艇隊八所在陸上部隊ノ指揮官ト協議甲標

的隊員ノ合同ヲ容易ナラシメル如ク迎撃作戰スベシ

三、甲標的隊指揮官ハ急速□□物件処分シタル後陸軍部

隊ニ合同シ該部隊ト協力敵ヲ撃滅スベシ

通四四三八 於十四(四九一五kc) 佐二放

山本(飯田)

46 四月七日 受信□□□□ 訳了□□□□

訳始□□□□ 電□□□□□□

作戦特別緊急 ⑨ 沖繩根

⑩ 天一号作戰部隊

機密第七〇一三七番電

一一〇〇ノ視界内敵情 嘉手納沖戰艦五隻 巡洋艦五隻

駆逐艦四隻 掃海艇九隻 輸送船五〇隻(輸送船其ノ他

多数アルモノノ如シ) 視界不良ノ為ニ中城湾其ノ

他ニ沖方面敵影ヲ見ズ 那霸上空敵機六。

通四七三四 天二Bケ六(七八七三kc) 一KGB

村山(小野田)

47 四月七日 受信二三二五 訳了〇一二〇 作概〇

八日 訳始〇〇〇四 電〇四三九六

電〇四三九七

作戦緊急 ⑨ 沖根

⑩ 天一号作戰部隊

機密第七二一四一番電 二分ノ一、二

発 司令官

本日夕刻迄ニ判明セル陸戦状況

敵ノ進出線ハ北上原・我如古・嘉数北方高地ニシテ敵兵

力ハ戦車二〇〇、兵員五―六箇大隊ナリ。

又戦車一台、兵員三百名小那覇ニ現出ス尚小禄飛行場

附近ニ敵上陸ノ気配アリ敵戒中。

通四九九九、五〇〇〇 天二B(四九一五kc) 佐二放

渡辺・仲榮(吉田)

48 四月九日 受信一二五五 訳了一四二〇 作概

訳始一三二〇 電〇五一七八

電〇五一七九

緊急 ⑨ 沖根

⑩ 天一号作戰部隊

機密第九一〇一五番電 二分ノ一、二

キウ情報第一号

一、昨八日夜間ヲ期シ開始ノ仮設基地ノ攻撃ハ概ネ成功

シツツアリ 陣内ノ敵ハ全部撃退セリ

二、昨夜神山島ニ対スル船舶連隊ノ斬込ハ全員斬込ニ成

功火炮二門ヲ爆破一部人員帰還セリ(砲爆撃ノ為電話

線ノ切斷頻リニシテ情報ノ入手時ニ遅延スル狀況ニアリ。

通五〇一二 天二Bケ六(九八三〇kc) 佐二放

五七九八

神山・西村(上野)

49 四月九日 受信二〇二三(以下不明)

訳始二〇四五(以下不明)

作戦緊急

⑧ 沖繩方面根

⑨ 天一号作戦部隊

機密第〇九一九一三番電

戦闘速報第二六号

一五四五掃海艇一隻那覇沖触雷沈没ス 朝来小禄来襲機延一〇〇機ノ銃爆撃及間断ナキ艦砲射撃ヲ受ケタルモ海軍側被害極メテ軽微ナリ。

通六〇四七 天二Bケ六(四九一五kc) 佐二放

野木(猪狩)

50 四月一〇日 受信〇四三八 訳了〇五四五 作概

訳始〇四五三 電〇五五七九

〇五五八〇

作戦緊急

⑧ 沖繩根

⑨ 天一号作戦部隊

機密第一〇〇三二八番電 二分ノ一、二

沖根戦闘速報 第二七号

八日〇六一五ヨリ戦艦二、駆逐艦八、掃海艇一三、輸送船一、曳船一計二五中城湾ニ侵入一部ノ兵力ヲ以テ知念岬トウ見張所附近ヨリ砲撃小舟艇ヲ以テ津ケン島ニ上陸ヲ開始セリ 馬天ニ在シリ武元射砲隊ハ此ノ敵ニ対シ魚雷五本ヲ発射ス 戦果大型駆逐艦一隻轟沈、掃海艇一隻大破被害戦死兵一名其ノ他軽微。

通六二〇三 天二Bケ六(四九一五kc) 佐二放

六二〇九

林(久保田)

51 四月一〇日 受信一三五七 訳了一五〇〇 作概

訳始一四一〇 電〇五六六四

至急

⑧ 沖根

⑨ 天一号作戦部隊

機密第一〇一一五四番電

馬天射堡隊ガ夜間攻撃ノ機会ヲ得難キ敵情ニ鑑ミ八日昼夜空襲下ニ敢然発射ヲ決行 敵駆逐艦一隻ヲ轟沈、掃海艇一隻ヲ大破シ上陸企図ヲ挫折セシメタルハ大可ナリ。

通六三五八 天二c口六(九八三〇kc) 佐二放

野木(塩田)

52 四月一三日 受信二〇〇八 訳了二〇二七 作概〇

訳始二〇二四 電〇七四四七

作戦緊急 ⑤ 沖根

⑤ 天一号作戦部隊

機密第一三一八四〇番電

敵ハ「ナガンス」島ニ電探ニ基設置使用シアリ

一八四〇

通八四七三 於十四(四九一五kc) 佐二放

望月(雨谷)

53 四月一六日 受信〇三四五 訳了〇六四〇 作概

訳始〇四三五 電〇八八七七

〇八八七八

閑送 ⑤ 沖根

⑤ 東京通信隊

機密第一五二二三七番電 二分ノ一、二

宛 海軍省副官

左ノ電伝ヘラレ度

発 沖繩県知事

宛 内務大臣

四月十三日迄ノ被害ハ各部家屋破壊一二三〇七 首里市
及沿岸部落ノ建物ハ殆ド潰滅 但シ中頭部以北ハ四月一

日以降連絡不能ニ付損害其ノ他状況不明 県庁員ハ知事
以下ノ士気軒昂 警察ハ検問同行及諜者謀略ノ破催並住
民ノ避難

三、当県民ノ戦意概ネ旺盛ニシテ治安上ノ懸念ナキモ食
糧制度ハ逐次逼迫 六月上旬以後ハ困窮 一部飢饉ニ瀕
セシコトヲ憂慮ス。

通一〇〇〇八(東通註 本電誤字極メテ多シ)

一〇〇四一 呂一Bケ七(五二〇〇kc)

長谷川・野木(田中)

54 四月一六日 受信二〇〇〇 訳了二三〇六 作概〇

訳始二〇二八 電〇九二一一 航本

緊急 ⑤ 沖繩根

⑤ 天一号作戦部隊

機密第一六一八二五番電

発 連合艦隊参謀

神山島飛行場ハ従来P一五 一ノミ発着シアリシ処本日

一六四〇F六F 一機着陸セリ。

通一〇四五二 〇一Bケ七(四九一〇kc) 佐二放

西村(鈴三)

55 四月一九日 受信〇二四二 訳了〇五三〇 作概〇

訳始〇四三〇 電一〇四五四

一〇四五五

機密第一八二〇五三番電 二分ノ一、二

天一号作戰部隊

機密第一八二三〇五番電 二分ノ一、二

沖根戰闘概報(四月十七日)

一、小祿基地陸戰陣地及其ノ他終日緩慢ナル砲爆撃ヲ受
高角砲台ハ觀測機ヲ配スル艦砲及神山島重砲ノ集中砲
火ヲ蒙レリ

二、東口砲台ノ現状 瀨長島砲台四門健在、宇栄原砲台
二門健在、外二平射角可能二門、金城砲台二門健在使
用可能計一〇門、残彈四四〇、十七日迄ノ被害高射器
全部燃上一〇門使用不可能

通一一八四四 呂一Bケ七(三七三〇kc)

通一一八四五 カニカヤ 神山・中田(三石)

56 四月一九日 受信〇〇三〇 訳了〇三一五 作概

訳始〇二一五 電一〇三二八

一〇三二九

至急

東通・横通・佐通・呉通

第三特攻戰隊

機密第一八二〇五三番電 二分ノ一、二

通報 海軍水雷學校実験部長

戰訓所見速報第二号

一、震洋隊搭乗員ノ航法能力不足ナリ襲撃教練以上二航
法訓練ヲ重視ノ要アリ。接敵航行中ノ故障或ハ対舟艇
戰闘等ノ為隊ヨリ分離セル本隊ト会合覚束ナシ。戰闘
実施上大ナル支障アリ、各艇毎二海図ヲ所持シ航海シ
得ル如ク訓練実施ノ要アルヲ痛感ス

二、現教育狀況ニテハ夜間六節(ノット)以上ノ編隊航
行不可能ニシテ行動變更ヲ著シク牽制セラレ作戦ノ要
求ニ応ジ得ズ最小限十二節程度ノ編隊航行可能ノ如ク
訓練スルヲ要ス

三、艇ノ基地到着迄ニ基地ヲ整備完了セシムル為設営隊
ハ勿論震洋隊基地員ハ可及的早期ニ先発進出セシムル
ノ要アリ。

通一一七九四 呂一Bケ七(五二〇〇kc) 佐通

通一一八〇六 武藤(浅間)

57 四月二〇日 受信〇一〇五 訳了〇二四四 作概〇

訳始〇二〇六 電一〇八三七 航本

作戰緊急

鹿屋航空基地

機密第一九二三一三番電

宛 GF参謀長

手榴弾及急造爆雷作製ノ為雷管五万个以上可成多数小祿部路南東方盆地(瀬永島ノ南端ヨリ六〇度三八〇〇米ヲ中心トスル三〇〇米圏内)ニ投下方配慮ヲ得度

飛行機ハ南西方ヨリ瀬永島上空ヲ経テ進入投下後略逆航路ヲ採ルヲ可トス。尚現品ハ鹿屋設営隊土屋技中佐準備シアル筈。

通一二三七五 呂一Bケ七(三七三〇kc) 沖根

長尾(福田)

〔編者注〕大田司令官の要請に依て五航艦は、五月八日午前三時三〇分到手榴弾一〇八〇個の空中投下をしたが、三機中一機は投下前に撃墜され、二機は火災のため位置の確認できず、海軍部隊は入手できなかった。

58 四月二〇日 受信一九二九 訳了二〇三五 作概〇

訳始一九四五 電一一二〇一

作戦緊急

⑤ 沖繩根

⑤ ⑥ 連合艦隊口・第六艦隊口

機密第二〇一七五七番電

嘉手能(納)那覇沖ヲ主トスル主力艦群ニ依ル陸上砲撃ハ著シク陸上戦闘ヲ阻害シアリ 回天特攻天武隊ハ本島

周辺ノ主力艦群ヲ攻撃セシメラルルヲ適當ナリト思考ス

通一二六九五 呂一Bケ七(B) 佐世保 石垣(森田)

59 四月二一日 受信〇六〇五 訳了〇九一〇 作概〇

訳始〇七四〇 電一一五二六

至急

⑤ 沖繩根

⑤ ⑥ 天一号作戦部隊

機密第二一〇四一八番電 二分ノ一

球情報(二十日二三三〇)

北方陸正面ノ敵ハ二十日朝来攻撃ヲ再開 其ノ重点ハ西海岸道方面ニ指向セラレアルモノノ如ク該方面ノ敵ハ熾烈ナル砲爆撃ニ援護セラレ湊川四八・九高地 伊祖二進出 我ハ果敢ニ反撃中ナリ 牧港方面ニ於テハ

〔電信課註 本電二分ノ一未着〕

通一一八九三五 呂一Bケ七(三七三〇kc)

沖根 口生(三石)

60 四月二一日 受信不詳 訳了不詳 作概

訳始一四四七 電不詳

航本

⑤ 沖繩特根

⑤ ⑥ 天一号作戦部隊

機密第二一一二五八番電

発沖繩方面特別根拠地隊參謀

本日午前 来襲延機六三機(TBF一 三十四機 S

B二C一 十二機 F六F一十二機 F四U一

五機ニシテ戦闘機ノ数著シク少シ)

主トシテ那覇 小禄部落 津賀山 与那原等ヲ銃爆撃

ス 行動時間平均一時間半 連日攻撃ニ依リ部落ノ家屋

殆ト焼失セリ。

通一三一四四 呂一Bケ七(七四六〇kc) 沖根

小林(小幡)

61 四月二一日 受信〇三五〇 訳了〇五一七 作概〇

訳始〇四四〇 電一一九二八

一一九二八

緊急

⊕ 沖根

⊕ 天一号作戰部隊

機密第二一二三四六番電 二分ノ一、二

沖根戦闘速報第三二号

一、二十日 小禄陣地ハ戦艦一 巡洋艦一 駆逐艦一及

神山島砲台ヨリ昼夜相次グ射撃及昼間延約一五六機ノ

銃爆撃ヲ受ク 戦果 撃破一機 被害 戦死南西諸島

空兵五 重傷九五一空小禄巡遣隊兵一

二、二十一日 小禄陣地ニ対スル攻撃ハ二十日ト同様ニ

シテ敵機ノ来襲ハ延約二一五機ナリ 一五・五糧砲台

及高角砲台附近ハ山形改マリ昔日ノ面影全クナシ 戦

果ナシ 被害重傷二二六設営隊工員一。

通一三五五二 呂一Bケ七(四九一五kc) 佐二放

一三五六〇 菅原(三石)

62 四月二二日 受信一七五五 訳了二二四五 作概

訳始二〇一〇 電自一二四一六

至一二四二二

閑送

⊕ 沖繩方面根

⊕ 東通・佐通・呉通・鹿屋空基地

⊕ 第二特攻戦隊、第三特攻戦隊

機密第二二一〇一八番電 七分ノ一、七

宛 GF司令官 佐鎮長官

通報 大海参一部長 軍務局長

第二七魚雷艇隊ノ戦果現状

敵侵攻海上及空軍部隊ノ著シキ増加ト我基地施設ノ不完

全ト二鑑ミ敵ノ砲爆撃又ハ上陸ニ依リ全能發揮以前ニ破

壊セラレザル様積極的ニ攻撃スル如ク努メタリ。

三月二十七日 敵機ノ空襲ニ依ル魚雷艇三隻喪失九隻

夜間残波岬沖ノ艦船攻撃ニ出撃ニ依リC二撃沈 TD一

撃破(発射雷数十六本) 被害一隻被弾沈没一隻擱坐

二十八日 三隻出撃セシモ夜間会敵セズ帰投

二十九日 二三〇〇残波岬西方海面ノ艦船攻撃ニ出撃戦果C一轟沈 大型C一撃沈(発射雷数八本) 被害未帰還二隻 防禦砲火熾烈

三十日 敵機ノ空襲ニ依リ四隻喪失 残艇五隻 推進器

□及軸変形修理見込タタズ 四月四日敵機空襲ニ依リ最後ノ一隻(本土基地)ヲ処分シ六日〇〇五五戦闘ニ〇レリ

戦訓既報 沖繩咬龍隊ノ部(其ノ二)

咬龍七四号空爆至近弾ニ依リ喪失 二十五日二〇七号

二二〇号 六七号 慶伊瀬島ノ北五湮ニテB二二本命中被害二〇九号 二二〇号消息不明 二十六日 二〇八号空襲

ノ為 基地ニテ沈没 六〇号 六四号出撃 戦果 六〇号残波岬ノ南西六湮戦艦ヲ攻撃セシモ命中セズ六四号二十七日

日一四〇〇残波岬ノ西六湮 巡洋艦二一本命中 被害 六〇号被弾十数発 三十日六七号出撃セルモ会敵セズ 三十

一日魚雷搭載ノ為構附中六七号M電動機陽極磁路故障ノ為六〇号衝突 六〇号沈没 五日六七号六四号出撃 嘉手

納沖輸送。

通一三八四六 一三九〇三 一三九六〇 一三八九五

一三九三三 一三九一一 一三九三八 呂一Bケ七

(七七四六〇) (五二〇〇kc) (B) 佐通

福山(久保田)

63 四月二三日 受信二二一〇 訳了二二〇五 作概

訳始二一四〇 電一二八二七

至急

沖根

天一号作戦部隊

機密第二三一九二二番電

沖根戦闘速報第三号

射堡隊八〇五〇〇中城湾ニ進入セル敵艦艇ニ対シ攻撃ヲ

決行セリ 戦果 駆逐艦一隻撃沈。

通一四五七三 呂二Bケ七(六七kc) 佐二放

品田(雨谷)

(编者注・射堡は、陸上から海上の敵艦艇を魚雷攻撃する発射装置・発射基地)

64 四月二四日 受信二二五五 訳了二三三五 作概

訳始二三一〇 電一三二二四

作戦特別緊急

球参電第一七三号

二四一四五〇

球参電第一七三号

通電先 関係各所

敵方「湊川・知念・小禄」等二上陸開始セル場合ハ航空攻撃ノ主目標ハ輸送船ニ選定方希望ス 地上配備変更重

点ヲ北リク方面ニ転移セルニ依ル。

通一五一二一 協作(三九三七、五kc) 一KFGB放

岩佐(鈴三)

65 四月二十六日 受信二三三一 訳了〇三〇〇 作概〇

二七日 訳始〇一一〇 電一四二九六

作戦緊急

⊗ 沖根

⊗ 天一号作戦部隊

機密第二六一九〇八番電

発 連合艦隊参謀

本二十六日延出現機数二三〇機(TBF一 六一機S

B二〇一 六四機 F六F一 一六機 F四U一

四六機 小型機三〇機 大艦五機 輸送機八機内攻撃セ

ルモノ一八〇機 来襲状況午前低調 午後群ヲナシテ来襲

相当熾烈ナル攻撃ヲナセリ 輸送機ノ発着モ多ク北飛行

場小型約三〇発着訓練 小型機ノ去来 輸送船ノ出入等時

期作戦切迫ヲ思ハシム。

通一六二二 呂一Bケ七(四九一五kc) 佐二放

大石(木下)

66 四月二十七日 受信〇七四七 訳了〇九〇七 作概

訳始〇八一〇 電一四三九八

作戦緊急

⊗ 沖繩方面根

⊗ 天一号作戦部隊

機密第二七〇六四五番電

一、〇六一五 視界内敵情口区戦艦四 巡洋艦五 駆逐

艦一四 輸送船約七〇隻 舟艇多数。

二、数日来那覇正面ニ対スル敵舟艇ノ策動及二十六日泊

正面リーフ線破壊射撃並ニ那覇 小禄 糸満一带ニ対

スル終夜二巨ル哨戒機ノ行動熾烈砲撃等ヨリ敵ノ新企

図ニ対シ警戒中。

通一六三七五 呂一Bケ七(七四六〇kc) 佐鎮陸上

東野(高橋)

67 四月二十八日 受信一七四五 訳了一九一九 作概〇

訳始一八一 電一五二二九

至急

⊗ 沖根

⊗ 次長・連合艦隊□・佐鎮

機密第二八一六一四番電

四月二十九日ヲ期シ全陸軍部隊ハ首里ヲ中心トシ新緊縮

配備ニ移ルコトナレリ 本職ハ新二配セラルル陸軍ノ

一部(船舶基地隊等)ヲ指揮下ニ入レ 小禄村 豊見城

村一带ノ地域ノ防備ヲ担任シ 小禄、糸満飛行場(注・

与根一伊良波の現在の国道331号沿線)ノ確保ニ任ゼ

ント口シ陸上戦闘ニ対スル万端ノ準備ハ精々トシテ完成、
全員士気軒昂タリ。

通一七二〇七 呂一B (七四六〇kc) カニガヤ

仲栄眞 (玉谷)

68 四月二九日 受信

訳了 作概

訳始一四二五 電一五五九二

至急

⑥ 六航軍派遣通信隊

④ 天一号作戦部隊

⑤ 大海参一部

機密第二九一二一五番電

球情報 四月一日ヨリ四月二十八日迄ニ於ケル綜合戦果

左ノ如シ

人員殺傷一八二七五 飛行機撃墜三五 撃破六二 戦車

攔坐炎上二九四 自動貨車爆碎七四 弾薬糧秣集積所爆

碎二六 迫撃砲破壊四四 戦車砲破壊一六 幕舎炎上六

三。

通一七六三二 呂一Bケ七 (九八三〇kc) 佐二放

中野 (渡瀬)

69 四月三〇日

受信〇九三〇 訳了一四〇五 作概

訳始一三三五 電一六〇五三

緊急

⑤ 沖根

④ 天一号作戦部隊

機密第三〇〇七〇七番電

⑥ GF参謀

一、機密第三〇〇三二七番電中追加 嘉手納沖ノ火炎ハ

其ノ後四ヶ所爆発 〇三五五頃艦種不詳炎上アト確認

セズ

二、眞小禄飛行場ノ西方沖合艦種不詳炎上約五分間 (撃

沈ナリヤ確認セズ)

三、中飛行場西方約六籽ノ「テキサス」型戦艦ハ此ノ二

日位置ヲ変エズ工作艦ヲシキモノ二隻両舷ニ横付中損

傷セルモノト認ム。

通一八一〇五 呂一Bケ七 (九八三〇kc) 佐二放

イソノ (成田)

五月

70 五月一日 受信一五〇五 訳了一七一五 作概

訳始一六〇〇 電〇〇三六一 航本

緊急

⑥ 第五基地航空部隊

④ 第五基地航空部隊・台湾方面飛行機配備基地

機密第一二二五八番電

発 参謀長

×日(五月四日ノ予定) 沖繩島ニ於クル友軍ノ総攻撃決
行ニ策応、三日以降當部隊ノ総兵力(特攻ヲ含ム)ヲ以
テ□作戦ヲ決行セシメラルルコトアリ。

通三三九 呂一Bケ一(一一三四七・五kc)

五FGB放 未光(阿波)

71 五月二日

受信〇三四二 訳了〇七三〇 作概

訳始〇四四九 電〇〇七二〇

〇〇七二一

緊急

⑨ 沖根

⑨ 天一号作戦部隊

機密第〇一二三二九番電 二分ノ一、二

沖根戦闘概報第三九号

四日間潜在セル艦艇中ノテキサス型B一及ニューメキシ
コ型B一C一D二〇一〇以上那覇沖ヲ游弋 神山島砲台
ト共ニ主トシテ小禄地区及後方重砲陣地ヲ砲撃セリ戦艦
二ヲ除ク 尚夜間射撃続行中ニシテ司令部周辺亦頻リニ
弾着シアリ

戦果ナシ 被害 戦死兵一 戦傷死兵二。

通六七五 呂一Bケ七(四九一五kc) 佐二放

七五八 (六七) 阿部(松山)

72 五月三日

受信〇二五五 訳了不詳

訳始〇四〇六 電不詳

至急

⑨ 沖根

⑨ 天一号作戦部隊

機密第〇二二三〇三番電

沖繩方面特別根拠地隊戦闘概報 第四〇号

天候不良ノ為航空機ノ行動活発ナラザリシモ神山島砲台
及小禄沖漂泊中ノBCDノ小禄地区及砲兵陣地射撃ハ終
夜熾烈ヲ極メタリ最近神山島ハ三一四門ノ一斉打方ヲ行
ヒ沿岸ノ第一線附近 射撃ニ八煙弾及榴散弾ヲ盛ニ使用
シアリ

戦果ナシ 被害 戦死兵二。

通一三一九 呂一Bケ七(四九一五kc) 佐二放

仲榮(木下)

73 五月四日

受信〇二四五 訳了〇九二〇 作概

訳始〇八三〇 電〇一九五九

⑨ 沖根

⑨ 天一号作戦部隊

⑨

機密第〇四〇一〇六番電

沖根戦闘概報

一四〇ヨリ天候不良ノ為砲爆撃ハ低調ニ経過セリ戦果ナシ 被害戦死兵二名 三日天候曇 那覇首里附近ニ終日猛烈ナル砲爆撃 陸軍ノ海上機動攻撃隊ニ策応大発ヲ以テ航空魚雷発射ヲ行ハントセルモ出撃直前被弾沈没セリ。戦果ナシ 被害大発沈没一。

通二〇八四 呂一Bケ七(三七五〇kc) 沖根

日高(□沢)

74 五月四日 受信二一二三 訳了二三一四 作概〇

訳始二二〇九 電〇二二八〇 航本

緊急 緊符

先遣部隊

機密第〇四一八四六番電 三分ノ一、二、三

EB綜合情報第七八号

一、陸上戦闘敵ノ攻 勢ハ多大ノ出血ニ依リ稍消極性トナレリ、我方軍ハ内間・前田・小那覇ノ線ヨリ四日ヲ期シ総攻撃ヲ開始シ順調ニ進ミツツアルモノ如シ。

二、沖繩周辺一二〇〇 北中飛行場沖 戦艦一 巡洋艦

三 駆逐艦一〇 輸送船六〇 其ノ他砲煙ノ為不明。

三、敵機動部隊 〇八三〇 地点ヘアヒ三一空母ヲ含ム

十数隻一二一〇地点ヘタヒ四七 空母四其ノ他十数隻

航空部隊之ヲ攻撃中 一二〇六 C六D七宮古島ヲ

二本日夕刻迄ノ陸上戦闘ハ順当ニ経過シツツアリ。

通二五九〇 呂一Bケ七(四九一五kc) 佐二放

小原(榛沢)

76 五月五日 (陸軍ヨリ接受) 電〇二六二六 作概

「那覇」球部隊参謀長

参考 次長

通電先関係各所

球参情電第六一七号

一、航空攻撃ノ甚大ナル戦果眞ニ祝福ニ堪ヘズ

二、軍ノ攻撃ハ右正面ニ於テ順ニ進展中ニシテ十五時頃迄二一部ハ上原、棚原附近ニ進出シアルモノノ如シ。軍

ハ五日払暁以降混成旅団ヲ右側正面ヨリ投入大山方 向ニ

向ヒ戦果ノ拡大ヲ企図ス。

三、海上挺進部隊ハ東西兩岸トモ上陸ニ成功セリ。

四、軍攻勢ノ両側面ノBCノ攻撃ニ関シテハ此ノ上トモ

配慮願ハシ度。

(小林)

77 五月六日 受信〇三二五 訳了〇七二五 作概

訳始〇四一〇 電〇三〇八七

電〇三〇八八

緊急

共符

機密第〇五二二三番電

二分ノ一、二

沖繩方面特別根拠地隊戦闘概報第四一四日

一、第三二軍八今朝ヲ期シ乾坤一擲ノ総攻撃ヲ開始之

二策応シ海軍攻撃隊(兵力約二〇〇〇名連合陸戦隊)

ヲ以テ第一線ノ陸上戦闘ニ機動参加シ得ル如ク準備ヲ

完了 従来ノ警備担任地区ハ海軍警備隊(使用可能兵

力約八〇〇〇名)ヲ以テ防備ヲ期シアリ派遣隊ニテ?

二、小禄飛行場並ニ警備担当地区終日緩慢ナル艦砲射撃

ヲ受ク戦果ナシ 被害戦死兵一。

通三三五七 呂一Bケ七(四九一五kc) 佐二放

通三三五六 咲花・鈴木(杉本)

78 五月六日 受信二三三〇

七日 訳始〇〇〇〇

電自〇三四六八

緊急

連合艦隊

六一一〇一〇

通電先 關係各所

球参情電第六二一号其ノ一、二、三、四、五

五日薄暮ヨリ六日払曉迄「沖繩」周辺ニ於ケル特攻隊ノ
戦果確認左ノ如シ

一、「渡嘉敷」島一九一五黒煙一二。

二、「慶良間」列島南方海面一九三〇特A一炎上後沈没

同(艦種不詳)ニ炎上。

三、「糸満」西方二三二五火柱一。

四、「嘉手納」西方海面〇二三五火柱三。

五、右ノ外五月四日〇一〇〇ヨリ〇四〇〇迄ノ追加

一「中城湾」〇一三〇・〇三五五各火柱一。

二「慶良間」列島〇二四九火柱一。

六、北・中飛行場不明

七、五日〇二〇〇ヨリ払曉迄ノ追加

一「湊川」南方海面〇二〇〇火柱一。

二神山島附近〇三三五火柱五。(七八七五)

通三六〇六・三六〇七・三六五二 協作(五二〇〇kc)

三八四五・三八五八 (B kc)

一KFG B放 谷島・村山・稲岡・筒井(小林)

79 五月八日 受信一六二五 訳了一八三五 作概

訳始一七三〇 電〇四二二三

緊急

沖繩根

㊦ ㊦ 天一号作戦部隊

機密第〇八一四三三番電

依然雨ノ為視界不良ナルモ昨七日午前南下視界外ニ去リ
シアーカンツ一型戦艦ハ口区ニ復シアリテニューメキ
シコ型ト共ニ二隻トナルメリーラント型戦艦ハ糸満沖ニ
移動シ緩慢ニ陸上砲撃中 其ノ他ノ艦船ハ数隻見ユ外視
認シ得ズ朝来敵機ヲ認メズ 一四三〇。

通四六七八 呂一Bケ七(七四六〇kc) 沖根

明比(森田)

80 五月九日 受信〇七五〇 訳了一〇三五 作概

訳始〇八一五 電〇四五〇七

至急

㊦ 沖根

㊦ 天一号作戦部隊

機密第〇九〇二一〇番電

戦闘概報第四号

六日陸軍部隊指揮下ニ入りテ十五糎榴弾砲八北方陸正面
ノ敵陣攻撃戦闘ニ参加 戦果調査中 被害戦死下士官兵
九 重傷兵七 雇傭人三。七日敵機ノ銃爆撃稍活発ニシ
テ艦砲射撃亦終日続ク 嘉手納沖方面敵艦船二隊シ小型
機雷ヲ使用浮流機雷四個ヲ沖繩錨地附近ニ設営隊ニ夜
間クリ舟ヲ以テ曳航那覇沖ヨリ放流 戦果不明 被害ナ

シ。

通五〇三〇 呂一Bケ七(九八三〇kc) 佐二放

半口(小沢晴)

81 五月一〇日 受信〇八二八 訳了一〇一〇 作概

訳始〇九一五 電〇四九六一

緊急

㊦ 沖繩方面特根

㊦ 天一号作戦部隊

機密第一〇〇六四三番電

発 GF参謀

〇〇二五ヨリ〇一三〇迄〇二二五ヨリ朝迄 敵灯火管制。
〇三三五嘉手納沖対空照射砲火 〇四二二中飛行場対空
砲火(四分間) 嘉手納短時間砲火ヲ認ム戦果確認セズ。
通五五二六 呂一B(九八三〇kc) 佐二放

石川(吉田)

82 五月一〇日 受信一三四六 訳了一四二三 作概

訳始一四〇五 電〇五〇三八

作戦緊急

㊦ 沖根

㊦ 天一号作戦部隊

機密第一〇一四三番電

発 連合艦隊参謀

昨夜中城湾ニ於テ戦艦一隻撃沈 陸軍特別攻撃隊ノ戦果
(球情報)。

通五六二四 呂一Bケ七(九八三〇kc) 佐二放

センバ(雨谷)

83 五月一二日 受信一五三五 訳了不詳

訳始一五五〇 電不詳

作戦緊急

沖根

天一号作戦部隊

機密第一二一二三六番電

発 GF参謀

敵機ノ攻撃ハ依然トシテTBF一ヲ主力トシ戦闘機ノ

数小クF四U一 四機F四F一四 二機 SBD一三

二機編隊ノ如キハ在空四時間以上ニ及ブ 午前ノ延機

TBF一 四十二機 SB二C一 二機 F四U一

一 八機 F四F一四 六機計六十二機。

通六七二五 呂一Bケ七(九八三〇kc) 佐二放

尾島(榛沢)

84 五月二〇日 受信〇八四四 訳了一〇五三 作概〇

訳始〇九二九 電〇五八七五

至急

沖根

天一号作戦部隊

機密第一九二三四五番電

沖繩根拠地隊連合陸戦隊戦闘概報第四号

十四日以降ノ人員別報

十四日戦死 士官一 下士官兵六 重傷士官一 下士官

兵七

十五日戦死 下士官兵一 重傷者下士官兵三

十六日戦死 士官一 下士官兵九 重傷下士官兵五人被

害ハ各部ノ報告遅延スル為特殊ノ場合ヲ除キ自今毎日ノ
戦闘概報ヨリ除キ取纏別途報告。

通一一〇四八 呂二Cケ七(七八七五kc)

一KFGB放 山本(阿波)

85 五月二一日 受信〇六二九 訳了〇九四五 作概

訳始〇七三五 電自一〇三一六 参本

至一〇三一八

至急 九五一空(小禄空基地)

天一号作戦部隊

機密第二〇二三五八番電 三分ノ一、二、三

小禄警備隊長

小禄警備隊戦闘概報第三号(一九日、二十日)

一、敵ハ依然小禄飛行場及同周辺陣地ニ対シ砲爆撃ヲ続

行シアリ飛行機ノ行動活発ニシテ攻撃セルモノ十九日
十機 二十日四六機 敵ノ小禄地区上陸企図ニ対シ嚴
戒中

二、十八日二三〇〇海軍第二砲台 陸軍独立高射砲隊
協力 天久・崇元寺町 高橋町ノ敵ヲ砲撃 発射彈
数一四三發

三、(イ) 戦果 (同島見張報ニ依リ確認セルモノ)

小湾ノ敵使用中ノ民家ハ焼失 幕舎破壊三

被害ナシ

(ロ) 十九日〇〇三〇 二發見セル勢理客方面ノ敵戰

車ニ対シ海軍第二砲台ヨリ砲撃 発射彈四〇發

戦果不明 被害ナシ

三、被害 戦死兵一〇名軍属四名 (十七日追加下士一)。

通一一四八七・一一五一〇・一一五一二

呂一Bケ七 (七八七五kc) 一KFGG放

荻庭・須木・小池 (増田)

86 五月二一日 受信二二〇五 訳了二二四五 作概〇

訳始二二三五 電一〇五一〇 航本

作戦緊急

小禄航空基地

天一号作戦部隊

機密第二一九二五番電

發 GF参謀

一八四五ヨリ一九二〇迄慶良間列島方向ニ対空砲火砲声
猛烈ニ断続折柄同方面ノミ雲千切レテ青空見ユ友軍機低空
ニテ攻撃スルヲ望見スルモ海面附近ニ帯霧ノ為戦果確認ス
ルニ至ラズ。

通一一八六二 於十六 (三七八二五kc) 五FGB放

日高 (猪狩)

87 五月二二日 受信〇三一八 訳了〇五五〇 作概

訳始〇四一〇 電一〇六三九 参本

至急 九五一空 (小禄航空基地)

天一号作戦部隊

機密第二一二三二五番電

發 小禄警備隊長

小禄警備隊戦闘概報 (第四号) (二十一日)

一、天候不良ノ為早朝観測機ニ往来P三八 一機超低空

ニテ飛行場大嶺海岸ヲ偵察セル外敵機ノ飛来ナカリシ

モ終日艦船及陸上砲台ヨリ小禄地区全域ニ対シ緩慢ナ

ル砲撃ヲ実施セリ

二、戦果ナシ 被害戦死兵二名。

通一一九三六 呂一Bケ七 (三九三七、五kc)

一KFGG放 鈴木 (阿波)

88 五月二三日 受信〇四二三 訳了〇六五〇 作概

訳始〇四四五 電一〇六六三 参本

緊急 共符

機密第二二二三二八番電

天一号作戦部隊

沖繩根拠地隊連合陸戦隊戦闘概報第五号 十九日天久真嘉

比方面ニ対シ挺進切込隊状況

一、(六一名)ヲ出發セシ陸戦隊ノ一ヶ大隊ハ牧志町方

面ニ進出ヲ了ス 二十日小禄方面ニ敵上陸ノ氣配ヲ認メシ

為 国場附近ニ進出待機中ナリシ陸戦隊約二個中隊豊見城

ニ主隊敵上陸ニ備フ。

通一一九五九 呂一Bケ七(四九一五kc) 佐放

西口(長尾)

89 五月二三日 受信〇二二〇 訳了〇三四五 作概〇

訳始〇三〇〇 電一一〇三二 航本

至急 九五一空

機密第二二二三二〇番電

天一号作戦部隊

小禄警備隊長

小禄警備隊戦闘概報 第四号(二十二日)

一、天候不良ノ為敵機ノ飛来ナキモ敵ハ依然昼夜連続小

禄地区全域ニ対シ砲火集中ヲ繼續シアリ、一九三〇B

一C三、D六W三 瀬長島沖ニ漂泊シアルハ特異ノ状

況ナリ

二、第三次挺進斬込隊員二〇組与那原方面ニ向ケ出發セ

シム。

三、戦果ナシ 被害戦死□□□重傷同二。

通一二〇〇七 呂一Bケ七(三九三七、五kc)

一KFGB放 長谷川(松山)

90 五月二三日 受信〇二四七 訳了〇六〇八 作概

訳始〇四〇八 電一一〇八八 参本

一一〇八九

作戦緊急 共符

機密第二二二三二四一番電

二分ノ一、二

沖繩連合陸戦隊戦闘概報 第六号 二十一日

〇七三五我方正面ノ敵ハ依然中央及西海岸方面ニ重点ヲ

指向シアリ。陸戦隊山口及田淵大隊ハ同方面ニテ敢闘中。

二十二日安里・松川方面ニ対スル敵ノ強圧益加ハリ識名

附近ニアリシ丸山大隊ノ一箇中隊ハ本夜松川南方三〇・

二台地ニ進出中。東海岸ニ於テハ本朝来運玉森南東麓ニ

戦車四輛ヲ伴ヒ歩兵二九〇 地獄鼻ニ歩兵二〇〇 営乞

森二斥候約一〇浸透セルヲ以テ陸戰隊ハ陸軍部隊ト相呼
応シ本夜挺身斬込隊ニ〇組ヲ進出セシメタリ

通一二四一三 呂一Bケ七(四九一五kc) 佐二放

一二四一七 半沢(松山)

91 五月二四日 受信〇六四五 訳了〇九五七 作概

訳始〇八〇〇 電一一五七四 参本

一一五七五

至急 ⑨ 九五一空(注・小禄航空基地)

⑩ 天一号作戰部隊

機密第二〇〇〇六番電 二分ノ一、二

發 小禄警備隊長

小禄警備隊戰聞概報第六号(二十三日)

一、午前敵機ノ行動活発ニシテ当地区ヲ攻撃セルモノニ

五機 午後八雨トナリ飛来ナシ砲撃ハ依然トシテ全域

ニ対シ緩慢ニ継続シアリ。

陸軍砲台ヨリノ報告ニ依レバ敵ハ本日一〇〇頃驅逐

艦ヨリ地上ニ水陸兩用戰車ヲ以テ火砲ヲ引揚ツツアリ

(八糧砲程度ノモノト推定ス)

二、在垣ノ花陸軍砲台ハ二十二日払曉内間・安謝・天久

ノ敵陣地ヲ砲撃發射弾數六〇發 戰果不明

三、被害

(イ) 戦死士官一名 下士官四名 兵一八名 軍属一名

重傷兵三 軍属一

(ロ) 陸軍七糧野戰高角砲一門爆撃ニ依リ埋没目下發掘作

業中。

通一一九七七 一二九八〇 呂一Bケ七

(七八七五kc) 一K F G B放 福岡、内山(森田)

92 五月二五日 受信〇一五五 訳了〇九二〇 作概

訳始〇三〇〇 電一二一〇七

一二一〇八

⑨ 沖繩方面根

⑩ 沖繩方面根・九五一空(小禄空基地)

⑪ 天一号作戰部隊・佐鎮

機密第二四一六四〇番電

海軍第三砲台(海軍兵曹長野村常人)ガイ巖部隊川村中尉

指揮下ニアリテ長期ニ亘リ敵ノ砲爆撃ニ対シ良ク隱忍温存

ニ努メ攻撃ノ機会ヲ窺ヒアリシ所タマタマ五月十八日敵驅

逐艦ノ至近距離射程内ニ坐礁スルヤ一〇〇頃猛然攻撃ヲ

開始只十發ノ射撃ニ於テ初弾ヲ以テ運送船 続イテ七射ヲ

以テ驅逐艦ヲ更ニ二斉射ヲ以テ油槽船ヲ夫々撃沈命中率七〇

%ノ大戦果ヲ収ム、今次敵ノ發見セル所トナラザルハ大ニ

可ナリ 更ニ戦果ノ増大ニ努ムベシ。

通一三四六三 天二Bケ六(九七三四kc) 沖根
一三四六六 岡野・瀬島(猪狩)

93 五月二五日 受信〇二四〇 訳了〇四〇五 作概

訳始〇三〇〇 電一二〇〇一 参本

作戦緊急 小禄航空基地

天一号作戰部隊

機密第二四二二二六番電

発 GF参謀

敵八日没時ヨリ灯火管制ヲ行ヒ二〇四二ニサイレンヲ発
シ二一〇〇ヨリ二二五〇迄嘉手納陸上海上ヨリ対空砲火
ノ砲声照射猛烈ニ断続二二四八北飛行場炎上約二分間
(爾後時々ドラム缶ヲシキ爆発スルヲ認ム)ヲ始メトシ二
一五五ヨリ二二四八迄ノ間海上ニ火柱合計一八(内二二
一〇頃ノ火柱二八爆発音ヲ伴ヒ黒煙ヲ挙ゲ二二四〇頃ノ
火柱八明ラカニ一隻炎上スルヲ望見ス又二二四五頃嘉手
納沖ノ火柱二八特大火柱ナリ)ヲ認ム

通一三五三 於十六(三九三七、五kc) KFGB放

山本(森田)

94 五月二五日 受信〇四二四 訳了〇五〇〇 作概

訳始〇四三七 電一二〇〇一 参本

緊急 小禄航空基地

天一号作戰部隊

機密第二五〇一三一番電

発 GF参謀

昨二十四日二三〇〇以後ノ戦果左ノ如シ

二三二一「嘉手納」沖火柱一、〇〇二一ヨリ〇〇二六ノ

間火柱八(内〇〇二一ノモノハ「嘉手納」沖艦船ノ炎上

〇〇二六ノモノハ北飛行場炎上ト覺シク一時間後モ尚

時々火勢猛烈ニ上リツツアリ)。

通一三五六〇 於一六(三九八五kc) 七FGB放

山下(小口)

95 五月二七日 受信一一〇〇 訳了一五二六 作概〇

訳始一二五八 電一三二一一

緊急 共符

鹿屋航空基地

機密第二六一一〇一番電

発 沖根司令官

宛 GF参謀長

通報 五艦隊参謀長

当隊機密第二五一八一四番電関連

二十一日以降当司令部ハ 司令部ノ確定次第五月二十

八日ニ移転予定ナルトコロ新司令部所在地（注・糸満市真栄平？）ニ於テハ敵飛行機艦船状況等ノ視認困難ナルヲ以テ棚町参謀担任及第三十二軍トノ連絡 本職之ヲ行フコトトシ棚町参謀ハ現地附近ニ挺身転任セシメ情報ノ蒐集ニ任ゼシムルコトト致セシニ付了承相成度。

《東通註 多誤字ノタメ □訳遅延》

通一四六一九 ロ一Bケ七（二〇二六五kc）五航艦□

尾嶋（竹内）

96 五月二十七日 受信一九五五 訳了〇〇一〇 作概〇

訳始二一五〇 電一三二七二

電一三二七三

至急

④ 沖根△

④ 天一号作戦部隊

機密第二六一九四五番電 二分ノ一、二

沖根連合陸戦隊戦闘概報 第五五号

二十四日 司令部首里ヨリ豊見城ニ復帰 挺身切込隊三

五組ヲ与奈原方面ニ進出セシム

二十五日 第三二軍八二十六日沖繩島喜屋武半島ニ兵力

ヲ集中スルニ決スルモ山砲 海軍部隊主力亦同地区ニ移

動ヲ開始 挺身切込隊九組ヲ与奈原方面ニ進出セシム

二十二日追加陸戦隊大隊長山口大尉松川附近ニテ戦死

其ノ他死傷相当アル見込ナルモ損害調査中ナリ。

《東通註 本電誤字極メテ多シ》

通一四四七一 呂一Bケ七（□九一五kc）佐二放

一四八五九

筒井（サイヒ）

97 五月三〇日 受信〇二二〇 訳了〇三五五作概〇航本

訳始〇三〇〇 電一四七四四 参本

一四七四五

④ 沖根△

④ 天一号作戦部隊

機密第三〇一八〇四番電 二分ノ一、二

沖繩根拠地隊連合陸戦隊戦闘概報 第八号

二十五日 第三二軍命令ニ依リ斬込隊九組ヲ出発セシメ

津嘉山警備隊長ヲ指揮下ニ入ラシム

二十六日第三二軍八島尻半島南部地区ニ兵力ヲ集約スル

ニ決セルニ策応 海軍部隊モ該地区ニ転進ヲ開始司令部

ヲ真栄平ニ移転

二十七日 陸軍部隊転進支援ノ為小禄地区ニ有力ナル一

部兵力ヲ残置セル外概ネ転進ヲ了ス。

二十八日 第三二軍命ニ依リ海軍部隊ハ小禄地区ニ復帰

スルニ決シ直ニ行動ヲ開始 司令部ヲ豊見城ニ移転

二十九日 部隊小禄地区復帰完了 敵兵約五〇那覇市内

第一波止場北明治橋附近ニ出現スルヲ望見スルニ至ル。

通一六六七九 呂一Bケ七(九八三〇kc) 佐二放

一六六八一 林・和田(□見)

98 五月三〇日 受信一五〇五 訳了一六四九 作概〇

訳始一六〇五 電一四五八五

一四五八六

作戦緊急

⊙ 沖根

⊙ 鹿屋航空基地

機密第三〇一一二七番電 二分ノ一、二

宛 沖根司令官

宛 GF参謀長

沖繩所在海軍部隊ハ既ニ最精銳四箇大隊及迫撃砲隊全力ヲ陸軍ノ指揮下ニ入レ 海軍ニ随シ得ザル状況ニテ小緑地区死守ノ配備ニ就キアル処 槍隊ヲ主力トスル部隊ナルヲ以戦力著シク低下シアルモ未ダ陸軍ニ運ビ切レザル迫撃砲弾残弾三〇〇〇発アリ 今此処ニ迫撃砲十門ノ夜間空輸ヲ得ナバ大ナル戦力ヲ發揮シ之方切迫セリ 至急御高配ヲ得度 投下ノ位置ハ糸満飛行場北寄り平地ヲ可トス。

通一六三六二 呂一Bケ七(九八三〇kc) 佐二放

一六三六六

長谷川・□□(渡瀬)

99 五月三一日 受信一一二三 訳了一二三〇 作概〇艦政

訳始一二〇八 電一四九四一 航本

作戦緊急

⊙ 天航空部隊

⊙ 佐鎮□・沖繩根△・大村航空基地・東通

機密第三一一〇三三番電

通報 大本営海軍部隊参謀部第一部 参謀部第二部

航空本部総務部 艦政本部総務部

GB電令作第六六号

TFB指揮官ハ沖繩根抛地隊機密三〇一一二七番電ニ依ル沖繩海軍部隊向ケ迫撃砲十門ノ大村沖繩間緊急挺進輸送ヲ実施スベシ。

通一六八一七 呂一Bケ十一(B) GF放

楠本(長尾)

100 五月三一日 受信一四三〇 訳了一八三〇 作概

訳始一六五〇 電一五〇五二 参□

一五〇五一

緊急

⊙ 沖根

⊙ 天一号作戦部隊

機密第三一一三三番電 二分ノ一、二

陸戦状況

三十日 一八三〇頃那霸市若狭二戦車三三台集結 泊沖
二水陸両用戦車一四台游弋 牧志町二歩兵約一五〇ヲ望
見ス 三十一日 〇八二〇那霸市壺川方面二歩兵約六〇
浸透陣地構築中ナリ 二十八日来那覇海岸壁附近二八敵
兵一〇数名出沒屢銃声ヲ聞ク 又不良橋ノ修築資材等ヲ
運搬集積シツツアリ 今ヤ敵ト近距離ニ対峙スルニ至リ
敵戒中ナリ 友軍第一線ハ逐次後退シアルモ西側ニ於テ
八首里城趾、真和志国民学校、小波(蔵カ)ニ対シテノ
線ハ尚確保シアルモノ如シ本日午前ノ艦砲射撃ハ後方
遮断ニ指向サレシアルモ一般ニ閑散ナリ 目下球司令部
移動中ニシテ通信杜絶東側ノ戦況不詳。

通一六八六三 呂一Bケ七(九八三〇kc) 佐鎮
一六八六四 (九六九〇kc) 沖根

品田(小沢綾)

六月

101 六月四日 受信〇五〇〇 訳了不詳

訳始不詳 電

⑧ 沖根

⑧ 天一号作戦部隊

機密第〇四〇九一八番電

第三十二軍ハ六月二日〇九四〇各部隊喜屋武半島南部
ヘノ兵力集中行動ノ目的ヲ達成セリ 此ノ間海軍部隊ハ小
緑地区ヲ拠点トシテ陸軍部隊輸送ノ支援ニ任ゼリ 第三十
二軍ハ六月二日以後小緑地区ニ残存セル海軍兵力ノ主力ヲ
喜屋武半島ニ合流セシメントスル最初ノ方針ニ従ヒ当方亦
着々準備中ナリシ処 二日夕刻ヨリ敵ノ進攻急ニシテ真玉
橋、嘉数、根差部ニ於テ予備隊(槍部隊)ノ大部ヲ戦闘ニ
参加セシムルノ情况トナリ 更ニ四日早朝小緑地区海正面
ヨリ敵上陸開始ノ為激戦ヲ展開スルニ至リシ為 遂ニ陸軍
部隊ニ合同不可能ノ状態ニ至レリ 右事情ニ依リ海軍部隊
ハ最後ノ一兵ニ至ル迄小緑地区ヲ死守セントス 本職ハ三
日司令部ヲ小緑九五一空戦闘指揮所ニ移転作戦指導中。

102 六月四日 受信 訳了

訳始 電

⑧ 沖根

⑧ 天一号作戦部隊

〇五〇〇水陸両用戦車約一〇〇 兵員約六〇〇名小緑(鏡
水)附近ニ上陸開始 機銃 迫撃砲 噴進砲等ヲ以テ之ヲ
邀撃猛撃ヲ加フル等撃退ニ努メシモ敵ハ逐次滲透 一八〇
〇ノ戦線概ネ當間 安次嶺 氣象台前糸満街道以西ニ及ベ
リ 夜間各隊全力ヲ挙ゲ挺身斬り込ヲ決行セリ

尚 鏡水海岸砲台員八陣前一〇米ニ於テ敵兵約四〇名ト
交戦二〇名ヲ殺傷。

103 六月五日 受信 訳了

訳始 電

⊗ 沖根

⊗ 天一号作戦部隊

機密第三一一一三番電

陣前二五〇米ニ於テ機銃ニ依リ三〇名殺傷 戦果迫撃砲
ニヨル人員殺傷約六〇名 其ノ他陣前殺傷一〇〇ヲ下ラス
判明セル斬込隊戦果機銃六挺 迫撃砲二門 幕舎二破壊
人員殺傷一一〇名 東真玉橋ヨリ侵入ノ敵ハ逐次勢力ヲ
増加 味方防戦ニモ拘ラズ戦線ハ嘉数 根差部 高入端東
南端ノ線ニ及ビシ為 主トシテ糸満街道ニ進出防止ノ為
平良方面ニ増援部隊ヲ出シ之ニ備フ。

一七〇〇ノ戦況

根差部、高安方面ノ敵ハ陣地構築中ニシテ戦線ノ動キ活
発ナラズ 小禄地区朝来ヨリ戦車七〇台以上ヲ伴フ一、〇
〇〇名以上ノ敵ハ飛行機ノ爆撃支援ノ下ニ攻撃ニ出デ彼我
激戦中ニシテ 逐次味方陣地ニ滲透シツツアルモ 南西空
部隊ハ陣前ニ克ク防戦中ナリ 一七〇〇ノ戦戦ハ垣花

赤嶺西端ヨリ朝島 西宮古 咲嶺北端ヲ連ヌル線ナリ
一三〇〇大嶺海岸ヨリ戦車約一五両 歩兵約五〇新二上
陸セシモ 内戦車ニヲ攔坐炎上セシメ 人員ノ他戦車ハ
撃退ス。

104 六月五日 受信一七四〇 訳了二一三〇 作概

訳始二〇二〇 電〇二九五〇

⊗ 沖根司令官

⊗ 天一号作戦部隊

機密第〇五一二三二番電 二分ノ一

暗号軍極秘

沖繩特根連合陸戦隊戦闘概報 第五三号

六月二日 一六〇〇敵約四〇〇名真玉橋通過 嘉数部
落ニ侵入セルヲ邀撃 真玉橋南方部落ニ撃退 兵力約二
〇〇名ヲ根差部(二三〇〇進出)更ニ三〇〇名ヲ長堂方
面ニ(以下の電文は不明)

通二七〇三 佐二放 永田(細川)

105 六月六日 受信一八五〇 訳了二〇五〇 作概

訳始二〇三〇 電〇三二一七

⊗ 沖根司令官

⊗ 天一号作戦部隊

機密第〇六〇三〇七番電

一、敵ハ破壊シアリシ真玉橋ヲ復旧スルニ至ラバ トラ
ツクター及ビブルトザー等土木機械使用三〇分ニテ完
成セリ

二、南北明治橋ノ復旧ニ「クレーン」舟艇ヲ利用半日ニ
シテ完成セリ

垣三三六八 佐二放 センバ（雨谷）

106 六月六日 受信一五〇〇 訳了一七一五 作概

訳始一六一〇 電〇三二〇七 参本

〇三二〇六

緊急

⊗ 沖根司令官

⊗ 天一号作戦部隊

機密第〇六一一五八番電 二分ノ一、二
発 沖縄方面特根司令官

一、昨五日夜 南北一貫ノ架橋完了□□物資輸送活発

二、本朝来敵ハ小禄部落西方ニ対スル攻撃熾烈ニシテ彼
我激戦中

三、根差部 高安方面ハ何レモ陣地構築中ナル如ク陸上
施設ヲ施シアリ

四、糸満街道沿ヒニ南下中ノ敵ハ當丘ニ迫撃砲ヲ備ヘ次
期作戦準備中

五、敵ハ支那人 印度人等ヲ使用シアリ

六、敵ノ一部ハ武富、波平、小口迄南下シアリトノ報ア
ルモ明確ナラズ

107 六月七日 受信〇二三〇 訳了〇三四八 作概

訳始〇三〇九 電〇三二六二 参本

緊急

⊗ 沖根

⊗ 天一号作戦部隊

機密第〇六一七三二番電

発 GF参謀

一、本日〇四三〇天候次第ニ恢復終始砲撃熾烈ナリ

一〇六〇〇頃ヨリTBF一 八機行動開始爾後延三

二機海軍一ヲ猛爆セルヲ始メトシSB二C一六機

F四F一三 二機一F四U一 一一一機之ニ協力

銃撃セリ

二〇八〇〇頃那覇沖ニBニアリシモ糸満沖ニ一隻移動

ス ○九三〇以後嘉手納沖B一C一D七T約四〇

那覇沖B一C二 D三一七糸満沖B一CD三トナリ

テ砲撃ヲ加ヘタリ

二、戦況切迫セリ 小官ノ報告（通報）ハ本電ヲ以テ此

処ニ一先ズ終信符ヲ打ツベキ時機ニ到達シタルモノト

判断ス御了承アリ度。

通三五一一六 呂一Bケ七(九六九〇kc) 佐二放

三五一一九

稲岡

108 六月七日 受信〇二二八 訳了〇五〇〇 作概

訳始〇四二〇 電〇三三四六

緊急

那覇

連合艦隊司令官 六一〇四〇〇

球参電第五六三号 其ノ七

海軍部隊ハ被包围ナル同方面ノ戦況ハ撤退行動ヲ許サズ
トナシ依然同地固守ノ方針ヲ堅持シ戦闘中ナリ。

(電信課註・本電其ノ一、三、六既布、二、四、五未

着)

通三五五六 協作 陸軍航空通信隊 平山・傳崎

109 六月七日 受信一八〇五 訳了二〇〇〇 作概〇

八日 訳始〇九〇五 電自〇三九三五

至〇三九三八

〇四二〇二

〇四八〇三

閑送

東通

沖根

機密第〇六二〇一六番電 六分ノ一〜六

発 沖繩根拠地隊司令官

宛 海軍次官

左ノ電ヲ次官ニ御通報方取計ヲ得度

沖繩県民ノ実情ニ関シテハ県知事ヨリ報告セラルベキ
モ県ニハ既ニ通信力ナク 第三二軍司令部又通信ノ余力
ナシト認メラルルニ付 本職県知事ノ依頼ヲ受ケタルニ
非ザレドモ現状ヲ看過スルニ忍ビズ 之二代ツテ緊急御
通知申上ゲ

沖繩島ニ敵攻略ヲ開始以來 陸海軍方面防衛戦闘ニ專
念シ 県民ニ関シテハ殆ド顧ミルニ暇ナカリキ 然レド
モ本職ノ知レル範圍ニ於テハ県民ハ青壯年ノ全部ヲ防衛
召集ニ捧ゲ 残ル老幼婦女子ノミガ相次グ砲爆撃ニ家屋
ト家財ノ全部ヲ焼却セラレ 僅ニ身ヲ以テ軍ノ作戦ニ差
支ナキ場所ヘノ小防空壕ニ避難 尚 砲爆撃ノガレ口
中 風雨ニ曝サレツツ 乏シキ生活ニ甘ンジアタリ 而モ
若キ婦人ハ率先軍ニ身ヲ捧ゲ 看護婦炊事婦ハ元ヨリ
砲彈運ビ挺身切込隊スラ申出ルモノアリ 所詮 敵来リ
ナバ老人子供ハ殺サルベク 婦女子ハ後方ニ運ビ去ラレ
テ毒牙ニ供セラルベシトテ 親子生別レ娘ヲ軍衛門ニ捨
ツル親アリ 看護婦ニ至リテハ軍移動ニ際シ衛生兵既ニ
出発シ 身寄無キ重傷者ヲ助ケテ敢テ真面目ニシテ一時
ノ感情ニ馳セラレタルモノトハ思ハレズ 更ニ軍ニ於テ

作戰ノ大転換アルヤ(自給自足)夜ノ中ニ遙ニ遠隔地方ノ住居地区ヲ指定セラレ 輸送力皆無ノ者 黙々トシテ雨中ヲ移動スルアリ是ヲ要スルニ陸海軍部隊沖繩ニ進駐以來 終始一貫 勤勞奉仕 物資節約ヲ強要セラレツツ(二部ハ悪評ナキニシモアラザルモ) 只々日本人トシテノ御奉公ノ護ヲ胸ニ抱キツツ遂ニ□□□□与ヘ□□コトナクシテ本戦鬪ノ末期ト沖繩島ハ実情形□□□□一木一草焦土ト化セン 糧食六月一杯ヲ支フルノミナリト謂フ 沖繩県民斯ク戦ヘリ 県民ニ対シ後世特別ノ御高配ヲ賜ランコトヲ。

三二六六・三八八一 〇一Dケ七 五二〇〇

三七四四・三八八二 九六九〇

三八六五・三六八四 佐通 高橋(宗)

110 六月一〇日 受信 訳了

訳始 電

Ⓢ 沖根

Ⓢ 天一号作戦部隊

一、平良 宇栄田 伊良波方面及高安 宜保 地覇方面
敵兵力次第増加 七四高地(注・海軍司令部の西側)

二近接 午後ヨリ銃砲撃戦展開セリ

二、饒波川東岸敵陣地ニハ著変ヲ認メラズ□□□□長堂

□道路往復ノ「トラック」ヲ銃撃 相当ノ損害ヲ与ヘツツアリ

三、小禄部落ヨリ一四〇〇戦車二 敵約五〇名豊見城道ヲ南下シ来レルモ戦車一擱坐 破壊之ヲ撃退セリ

四、金城、赤嶺 宇栄原ノ線ニ於テハ我敢闘逐次圧縮全兵力ノ一部陣地収縮ヲ実施スルノ止ムナキニ至ル

五、確認セル戦果 人員殺傷二五〇 戦車擱坐炎上四六、被害 戦死傷者一一〇

111 六月一日 受信 訳了

訳始 電

Ⓢ 沖根

Ⓢ 第三二軍参謀長

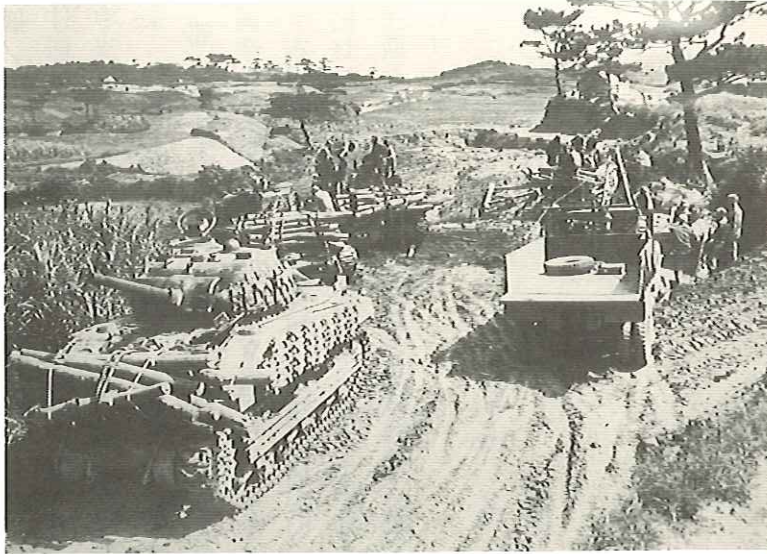
Ⓢ 次長 総長 佐鎮各長官

敵後方ヲ攪乱又ハ遊撃戦ヲ逐行スル為 相当数ノ将兵ヲ残置ス 右将来ノ為一言申シ残ス次第ナリ

一、宜保ヨリ北上ノ敵八一三〇〇戦車ニヲ伴フ約五〇豊見城部落ノ南端ニ対シ 更ニ一部ハ豊見城城趾高地ニ侵入セリ

二、地覇 宇栄田方面ヨリ侵入ノ敵八戦車二両ヲ先頭ニ

一三〇〇 七四高地西方三〇〇迄近接 肉攻斬込ヲ以テ激戦中ナリ



1945年6月11日午後1時74高地「海軍司令部壕」に向かう米戦車

- 三、小祿部落南端金城間 片点線路 金城西方四軒五
〇・八高地？ 三叉路ノ線ニ於ケル敵ノ重圧ハ逐日
増大 邀戦熾烈ヲ極ム
- 四、戦果（略）
- 五、被害 調査中

112 六月一日 受信 訳了

訳始 電

⑤ 沖根

④ 天一号作戦部隊

機密一・二・三番電

一、早朝ヨリ司令部ニ対スル包围攻撃熾烈ナリ 司令
部 全力及九五一空一部ヲ以テ夕刻ニ至ル迄陣前ニ邀
撃 弾薬尽ル迄激闘ヲ交ヘ多大ノ出血ヲ強要セリ
司令部陣前ニテ二〇〇〇迄ニ収メタル戦果 人員殺傷
約一〇〇〇

二、同被害一一〇

113 六月一日（夜） 受信 訳了

訳始 電

⑤ 沖根

④ 第三二軍司令官

敵戦車群ハ我司令部洞窟ヲ攻撃中ナリ 根拠地隊ハ今
十一日二三三〇玉碎ス 従前ノ厚誼ヲ謝シ貴軍ノ健闘
ヲ祈ル

（編者注）沖繩方面根拠地隊司令官大田實少将は、十

三日午前一時に司令部壕内で自決したといわれる。

豊見城村史編さん室業務日誌

| | | |
|-------|------|-------------------------------|
| 平成11年 | 1・4 | 仕事初め |
| | 1・6 | 字伊良波の印部土手石写真撮影（大城・儀間） |
| | 1・13 | 戦争編県外調査（東京・防衛研究所 吉浜・大城 15日まで） |
| | 1・22 | 県史料編集室訪問（大城・儀間） |
| | 1・25 | 『豊見城村史たより』第4号発行 |
| | 2・5 | 県教育庁文化課と村内戦跡調査 |
| | 2・8 | 社会教育課文化係と字金良の防空壕調査（吉永・儀間） |
| | 2・15 | 第9回戦争編専門部会開催 |
| | 2・22 | 字名嘉地の防空壕調査（吉永・大城・儀間） |
| | 2・24 | 字上田大城家実測（吉永・儀間） |
| | 2・25 | 沖縄戦字別調査（字長堂 吉永・大城） |
| | 2・26 | 沖縄県地域史協議会研修（浦添市 大城・儀間） |
| | 3・8 | 地下壕に関する情報交換（区画整理課） |
| | 3・10 | 県立図書館訪問 |
| | 4・1 | 吉永安三建設総務課へ異動、具志進着任 |
| | 4・13 | 県史料編集室訪問（大城・儀間） |
| | 5・1 | 沖縄戦字別調査（字高嶺 井上・大城） |

| | | |
|--|------|--------------------------------------|
| | 5・11 | 糸満市文化課訪問、戦争編・民俗編の編集についてアドバイスを受ける（儀間） |
| | 5・14 | 第10回戦争編専門部会開催 |
| | 5・24 | 海軍砲台位置確認のため、字平良轟川付近踏査（大城・儀間） |
| | 5・28 | 沖縄県地域史協議会総会（糸満市 具志・大城・儀間） |
| | 5・31 | 沖縄戦字別調査（字豊見城 具志・大城） |
| | 6・10 | 第11回戦争編専門部会開催 |
| | 6・21 | 糸満高校の6・23特別展見学（同校図書館 大城・儀間） |
| | 6・25 | 社会教育課文化係と字平良の旧日本軍構築壕調査（大城・儀間） |
| | 6・30 | 字我那覇後原丘陵一帯の壕確認踏査（運天信成氏・具志・大城） |
| | 7・5 | 村内戦争遺跡写真撮影（大城・儀間） |
| | 7・8 | 沖縄戦字別調査（字渡橋名 具志・大城） |
| | 7・10 | 航空・陸上自衛隊駐屯地内の戦跡視察（戦争編専門部会・村史職員） |
| | 7・18 | 第12回戦争編専門部会開催 |
| | 7・18 | 字保栄茂綱打調査（儀間） |

| | |
|-------|--------------------------|
| 7・24 | 沖繩戦字別調査(字保栄茂 宜保) |
| 7・29 | 字保栄茂六月ウマチー網撮影(儀間) |
| 8・6 | 南風原町史編集室 古賀・赤嶺氏来室 |
| | 『南風原町史』寄贈 |
| 8・9 | 字平良の防空壕調査(大城・儀間) |
| 8・10 | 第13回戦争編専門部会開催 |
| 8・11 | 那覇市歴史資料室 照屋・新垣・知念氏来室 |
| 8・31 | 沖繩戦字別調査(字翁長 宜保・儀間) |
| 9・1 | 村文化係と字平良の防空壕調査(大城・儀間) |
| 9・9 | 第1回民俗編専門部会開催 |
| 9・11 | 字保栄茂ティーンダティヌ御願調査(儀間) |
| 9・16 | 県公文書館移民展見学(大城・儀間) |
| 9・18 | 字保栄茂コーヌユーエー調査(村文化係・儀間) |
| 9・20 | 文化係と字平良の防空壕調査(村文化係・儀間) |
| 9・24 | 字保栄茂・翁長の十五夜御願調査(大城・儀間) |
| 9・25 | 字保栄茂のマチポー・字翁長の豊年祭調査 |
| | (文化係・大城・儀間) |
| 9・26 | 〃 |
| | (儀間) |
| 10・14 | 沖繩県地域史協議会研修(竹富町 具志16日まで) |
| 10・15 | 第14回戦争編専門部会開催 |
| 10・16 | 沖繩戦字別調査(字伊良波 大城) |

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 10・19 | 沖繩戦字別調査(字平良 具志・大城) |
| 10・20 | 沖繩戦字別調査(字嘉敷 吉浜・宜保・儀間) |
| 10・21 | 県史料編集室訪問(大城・儀間) |
| 10・28 | 沖繩戦字別調査(字根差部 宜保・儀間) |
| | 沖繩市平和ガイド養成講座に参加(大城・儀間) |
| 11・5 | 県史資料編集室より『大阪朝日新聞』借用(大城・儀間)(同月11日返却) |
| 11・6 | 沖繩戦字別調査(字渡嘉敷 具志・大城) |
| 11・10 | 沖繩戦字別調査(字饒波 大城・具志・大城) |
| 11・11 | 環境保健課村内文化財巡り案内(文化係・大城) |
| 11・11 | 沖繩戦字別調査(字渡橋名 大城) |
| 11・12 | 沖繩市史伊敷氏より民俗編の編集についてアドバイスを受ける(儀間) |
| 11・17 | 第2回民俗編専門部会開催 |
| 11・20 | 第15回戦争編専門部会開催 |
| 11・24 | 環境保健課村内文化財巡り案内(文化係・儀間) |

第6卷「戦争編」専門部会

任期：平成9年1月24日～平成13年3月31日

| 氏名 | 職名等 | 備考 |
|-------|----------------|------|
| 安仁屋政昭 | 沖縄国際大学教授 | 部会長 |
| 長嶺栄一 | 元教員 | 副部会長 |
| 井上秀雄 | 沖縄県立芸術大学教授 | |
| 吉浜忍 | 沖縄県公文書館史料編集室主幹 | |
| 平良宗潤 | 沖縄県立糸満高等学校教諭 | |
| 大城勲 | 元教員 | |
| 登川吉雄 | 元教員 | |
| 大城正祺 | 元県職員 | |

第7卷「民俗編」専門部会

任期：平成11年9月9日～平成13年3月31日

| 氏名 | 職名等 | 備考 |
|-------|------------------|------|
| 赤嶺政信 | 琉球大学教授 | 部会長 |
| 当間浩和 | 沖縄県立豊見城南高等学校教諭 | 副部会長 |
| 大城りつ子 | 糸満市立潮平小学校教諭 | |
| 小熊誠 | 沖縄国際大学教授 | |
| 波平エリ子 | 沖縄国際大学・沖縄大学非常勤講師 | |

豊見城村史だより 第5号

発行 平成11(1999)年12月15日
編集 豊見城村教育委員会村史編さん室
501-0232 豊見城村字伊良波392番地
(村立中央図書館内)

電話(098)856-3671
FAX(098)856-8044

村史編集室スタッフ

宜保喜久 室長・具志進 係長・大城達宏 主査
儀間淳一 囑託